

明治学院広報

2023年度事業報告書



横浜キャンパス 建設中の新校舎

学校法人 明治学院

2023年度を振り返って

学校法人 明治学院
理事長 山崎 雅男

2019年度の終わりから新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、わが国では2020年度～2022年度の3年間に亘る流行が続いて社会活動が大きく変化せざるを得なくなりました。2023年5月8日からは季節性インフルエンザと同じ5類感染症に移行しましたが、この間に明治学院では授業の形態、国際交流や課外活動のあり方等に大きな影響をうけたために、教職員は積極的に対面授業とオンライン遠隔授業の活用等を進めてまいりました。2023年度はコロナ感染症への不安が和らぎ、授業や課外活動を全面的に対面に戻し教育水準の維持・向上を推進することができました。

明治学院は遡ること1863年（江戸時代末期の文久3年）に米国人宣教医師ヘボン博士が横浜の自宅に開設したヘボン塾を源流とする、わが国の私立学校の中でも最も長い歴史を有する学校の一つとして2023年には創立160周年を迎えました。創立以来のキリスト教に基づく人格教育を永く堅持し続け、現在では1中学校、2高校、1大学（6学部16学科・7研究科12専攻）から成る総合的な学園に発展し、2023年度には14,313名（2023年5月1日現在）を数える生徒・学生を擁し一層の教育・研究の向上に努めてまいりました。

2023年度の学院の歩みを振り返ってみますと、コロナ禍の試練を乗り越えたこともあって明治学院の教育・研究に対する社会からの期待が確実に高まっていることを感じます。中でも2023年度に行われた事業について幾つの特筆すべきことがありました。

第一点は、明治学院に流れる教育理念を確認・発展させるため、「明治学院教育ビジョン」に基づいて中学・高校・大学の教職員からなる5つの推進チームが中期計画（2020年度～2024年度）での行動目標を設定したうえで、可能な限りの具体的取り組みに向かって活動してまいりました。また学院の「年間主題聖句」を掲げ、それぞれの学校においてキリスト教の礼拝を毎日守ってきました。

第二点は、大学では今後の情報化社会を担える人材を育成するため、理系の新学部「情報数理学部」、「情報科学融合領域センター」の設置準備を進め、明治学院大学の理念のもと、次世代の技術を用いた人間中心の未来社会の実現に取り組みました。また大学の横浜キャンパス新校舎の建設が2023年7月末に着工し、2025年6月の竣工を目指して始まりました。

第三点は、2023年度に大学の全学生を対象とした「AI・データサイエンス教育プログラム」を開始し、初級レベルの「AI・データサイエンス入門」には2,469名の履修がありました。

第四点は、私立学校法改正（2025年4月1日施行）に対応するため法人役員・評議員の構成の見直しを図りました。

第五点は、私立学校の環境の厳しい中で2023年度に行われた大学入学試験では志願者からの評価が得られ、志願者数は前年度とほぼ同数となり、入学定員を充足することができました。また明治学院高校並びに明治学院中学・東村山高校においても前年度とほぼ同数の志願者を得ることができました。

これらの事業を積極的に進めてまいりましたが、財政面では2023年度の基本金組入前当年度収支差額（正味財産の増加）は予算を大きく上回ることができました。報告の締め括りにあたり、2023年度中にいただきました学外の方々からのご寄付（特に「大学チャレンジ奨学金募金」）ご支援に深く感謝申し上げますとともに、これからも引き続き絶大なご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

目 次

第1章 学校法人明治学院の概要

1. 明治学院の建学の精神と沿革	1
2. 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・ 入学者数・収容定員・現員	3
3. 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積	4
4. 学生・生徒等納付金	5
5. 設置する学校の役員・評議員・教職員数	7

第2章 2023年度事業の概要

1. 法人	
(1) 事業計画	9
(2) 事業計画の進捗状況	9
2. 明治学院大学	
(1) 事業計画	16
(2) 事業計画の進捗状況	16
(3) 教育研究の概要	20
3. 明治学院高等学校	
(1) 事業計画	22
(2) 事業計画の進捗状況	22
4. 明治学院中学・東村山高等学校	
(1) 事業計画	30
(2) 事業計画の進捗状況	30

第3章 2023年度財務の概要と経年比較（2019年度～2023年度）

1. 財産目録	38
2. 貸借対照表	39
3. 資金収支計算書	40
4. 活動区分資金収支計算書	41
5. 事業活動収支計算書	42
6. 財務比率検証	43
7. 監事による監査報告書	44

第1章 学校法人明治学院の概要

1. 明治学院の建学の精神と沿革

(1) 明治学院の建学の精神

学校法人明治学院の寄附行為には、「この法人は、教育基本法および学校教育法に従い、福音主義のキリスト教に基づいて、教育事業を営営することを目的とする」（第3条第1項）と定められている。この法人の起源は、1863（文久3）年に米国人宣教医師ヘボン博士の横浜の住居に開設された「ヘボン塾」にあり、今日の1中学校、2高校、1大学（6学部16学科・7研究科12専攻）を擁する総合的な学園にまで発展してきた160年の歩みを一貫して、「キリスト教に基づく人格教育」という建学の精神を堅持しつつ、わが国教育界に独自の寄与をしている。

(2) 明治学院の沿革

(年)	(年)	
1859	安政6	・10月 J.C.ヘボン博士神奈川到着、成仏寺に住まう
1863	文久3	・ヘボン博士横浜で英学塾を開設（ヘボン塾）
1877	明治10	・米国長老教会などの三ミッションは一致合同して東京一致神学校を創立
1880	明治13	・4月 ヘボン塾は築地明石町7番に移転し築地大学校と改称、J.C.バラ校長となる
1881	明治14	・横浜に先志学校（M.N.ワイコフ校長）を開く
1883	明治16	・築地大学校（J.C.バラ校長）と先志学校（M.N.ワイコフ校長）は合併して東京一致英和学校となる
1886	明治19	・4月 東京一致神学校・東京一致英和学校・同予備校の三校合併案成る ・6月 明治学院の名称決定 ・白金（現在地）に校地購入
1887	明治20	・1月 明治学院設置認可 ・校地を白金に移す
1889	明治22	・10月 ヘボン博士、明治学院初代総理に、井深梶之助副総理に就任
1890	明治23	・5月 インブリー事件（明治学院と一高との野球試合の際の事件）起こる
1891	明治24	・11月 井深梶之助第2代総理に就任
1898	明治31	・6月 普通学部を尋常中学部とする
1899	明治32	・8月 文部省訓令第12号が公布され学校内の宗教教育・儀式が禁止された。学院は臨時理事会を開き、宗教教育を維持するため他の基督教主義学校と共に文部省に交渉
1907	明治40	・島崎藤村作詞による校歌を制定（作曲 前田久八）
1911	明治44	・9月 ヘボン博士米国イースト・オレンジにて逝去
1916	大正5	・3月 ヴォーリス建築設計事務所設計による新礼拝堂献堂式挙行
1925	大正14	・4月 田川大吉郎第3代総理に就任
1930	昭和5	・神学部は学院から分離し、東京神学社と合併して日本神学校設立
1935	昭和10	・7月 総理を学院長と改称
1937	昭和12	・11月 島崎藤村自筆校歌碑建設
1949	昭和24	・明治学院大学設置認可 ・4月 大学文経学部開校
1951	昭和26	・3月 財団法人から学校法人に組織変更認可
1952	昭和27	・4月 中高分離 ・大学は文学部、経済学部の二学部に分離
1955	昭和30	・大学院文学研究科英文学専攻修士課程設置 ・東村山に校地購入
1962	昭和37	・4月 大学院文学研究科英文学専攻博士課程開設
1963	昭和38	・4月 東村山高等学校開校
1965	昭和40	・3月 中学講堂落成 ・4月 社会学部独立
1966	昭和41	・2月 白金礼拝堂にパイプオルガン設置 ・4月 中学、東村山に移転。大学法学部設置
1968	昭和43	・10月 大学で立看板撤去破壊事件起る（学園紛争の発端）
1977	昭和52	・『明治学院百年史』を刊行
1985	昭和60	・横浜校舎開校
1986	昭和61	・国際学部／国際学科設置
1989	平成1	・5月 テネシー明治学院高等部開校
1990	平成2	・文学部／芸術学科・心理学科、法学部／政治学科設置
1991	平成3	・高校、中学・東村山高校が男女共学に移行
1996	平成8	・経済学部／経営学科（商学科を改称）設置
1998	平成10	・1月 株式会社明治学院サービス設立 ・中学・東村山高校の新校舎完成
2000	平成12	・法学部／消費情報環境法学科設置
2002	平成14	・大学教養教育センター発足
2004	平成16	・心理学部／心理学科、法科大学院設置
2006	平成18	・経済学部／国際経営学科設置
2007	平成19	・芝浦工業大学と明治学院大学との交流・連携事業が開始 ・3月 テネシー明治学院高等部閉校
2008	平成20	・2月 礼拝堂の耐震補強と復元・改修工事が完成
2009	平成21	・3月 大学高輪校舎の献堂式 ・7月 「日本近代音楽館」からの資料寄贈に関する合意書取り交し ・10月 新パイプオルガン奉獻式（白金礼拝堂）

2010	平成22	・4月 心理学部／教育発達学科設置
2011	平成23	・4月 国際学部／国際キャリア学科設置
2012	平成24	・3月 大学13号館の献堂式
2013	平成25	・12月 創立150周年記念礼拝 ・『明治学院百五十年史』を刊行
2015	平成27	・4月 大学院「法と経営学研究科」設置
2016	平成28	・12月 横浜校舎開校30周年記念式典 ・3月 「明治学院教育ビジョン」策定
2017	平成29	・4月 大学院心理学研究科教育発達学専攻修士課程設置 ・11月 礼拝堂献堂100周年記念音楽礼拝
2018	平成30	・3月 法科大学院廃止
2022	令和4	・4月 法学部／グローバル法学科設置 ・7月 明治学院高等学校の新校舎完成

2. 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・入学者数・収容定員・現員

(2023年5月1日現在)

学校名(所在地)	大学院	文学研究科 経済学研究科 社会学研究科 法学研究科 心理学研究科 法と経営学研究科
明治学院大学 (東京都港区白金台)	学 部	文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の3・4年次 課程
(神奈川県横浜市戸塚区上倉田町)	大学院 学 部	国際学研究科 文学部・経済学部・社会学部・法学部・心理学部の1・2年次 課程 国際学部

専攻・学部・学科等名	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
大学院					
文学研究科		38	12	86	37
英文学専攻 博士(前期)課程	1955	10	2	20	7
英文学専攻 博士(後期)課程	1962	2	1	6	2
フランス文学専攻 博士(前期)課程	2000	8	2	16	4
フランス文学専攻 博士(後期)課程	2003	3	0	9	2
芸術学専攻 博士(前期)課程	2001	10	5	20	11
芸術学専攻 博士(後期)課程	2003	5	2	15	11
経済学研究科		16	2	38	5
経済学専攻 博士(前期)課程	1960	10	0	20	1
経済学専攻 博士(後期)課程	1989	3	2	9	3
経営学専攻 博士(後期)課程	1989	3	0	9	1
社会学研究科		25	11	55	23
社会学専攻 博士(前期)課程	1967	10	5	20	7
社会学専攻 博士(後期)課程	2006	2	1	6	1
社会福祉学専攻 博士(前期)課程	1960	10	4	20	12
社会福祉学専攻 博士(後期)課程	2006	3	1	9	3
法学研究科		5	1	15	3
法律学専攻 博士(後期)課程	1972	5	1	15	3
国際学研究科		12	2	26	6
国際学専攻 博士(前期)課程	1990	10	2	20	5
国際学専攻 博士(後期)課程	1992	2	0	6	1
心理学研究科		34	14	72	36
心理学専攻 博士(前期)課程	2004	20	13	40	27
心理学専攻 博士(後期)課程	2007	4	0	12	3
教育発達学専攻 修士課程	2016	10	1	20	6
法と経営学研究科		20	15	40	31
法と経営学専攻 修士課程	2015	20	15	40	31
大 学 院 計		150	57	332	141

専攻・学部・学科等名	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
学 部					
文学部	1949	505	511	2,020	2,077
英文学科	1949	225	231	900	914
フランス文学科	1965	115	107	460	459
芸術学科	1990	165	173	660	704
経済学部	1949	690	716	2,760	2,793
経済学科	1949	325	335	1,300	1,296
経営学科	1952	210	219	840	859
国際経営学科	2006	155	162	620	638
社会学部	1949	490	490	1,960	2,019
社会学科	1949	245	238	1,020	1,013
社会福祉学科	1965	245	252	940	1,006
法学部	1966	645	658	2,580	2,611
法律学科	1966	200	203	800	801
消費情報環境法学科	2000	225	229	900	907
政治学科	1990	155	155	620	626
グローバル法学科	2018	65	71	260	277
国際学部	1986	300	268	1,200	1,238
国際学科	1986	245	233	980	1,005
国際キャリア学科	2011	55	35	220	233
心理学部	2004	320	329	1,280	1,297
心理学科	2004	175	176	700	703
教育発達学科	2010	145	153	580	594
学 部 計		2,950	2,972	11,800	12,035

学 校 名		開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
明治学院高等学校 (東京都港区白金台)	全日制課程	1948	333	315	1,000	942
明治学院東村山高等学校 (東京都東村山市富士見町)	全日制課程	1963	240	263	720	766
明治学院中学校 (東京都東村山市富士見町)		1947	140	144	420	429
合 計			713	722	2,140	2,137

3. 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積

(単位：㎡)

	所 在 地	使用部門	キャンパス面積	校舎面積
白金キャンパス	東京都港区白金台	大学院・大学・高校・法人	39,530	76,857
横浜キャンパス	神奈川県横浜市戸塚区上倉田町	大学院・大学	201,576	51,838
東村山キャンパス	東京都東村山市富士見町	中学・東村山高校	56,200	16,700
戸塚グラウンド	神奈川県横浜市戸塚区俣野町	大学院・大学	48,872	2,039
合 計			346,178	147,434

(2024年3月31日現在)

4. 学生・生徒等納付金

＜大学学部（年額）＞

（単位：円）

学 科	1年次	2年次	3年次	4年次
	2023年度生	2022年度生	2021年度生	2020年度生
英文	1,272,600	1,056,100	1,056,100	1,096,100
フランス文	1,272,800	1,056,300	1,056,300	1,096,300
芸術	1,358,600	1,142,100	1,142,100	1,182,100
経済、経営	1,267,420	1,056,100	1,056,100	1,096,100
国際経営	1,487,420	1,081,020	1,076,100	1,116,100
社会、社会福祉	1,274,100	1,057,600	1,057,600	1,097,600
法律、消費情報環境法	1,285,600	1,069,100	1,069,100	1,109,100
グローバル法	1,502,400	1,099,100	1,099,100	1,139,100
政治	1,277,600	1,059,100	1,059,100	1,099,100
国際	1,320,400	1,113,100	1,113,100	1,149,100
国際キャリア	1,485,400	1,278,100	1,278,100	1,314,100
心理	1,344,600	1,128,100	1,128,100	1,168,100
教育発達	1,424,600	1,208,100	1,198,100	1,238,100

* 1年次は入学金200,000円を含む。

* 4年次は校友会終身会費40,000円を含む。

＜大学院（年額）＞

（単位：円）

博士前期課程・修士課程	1年次		2年次	3年次
	2023年度生		2022年度生	2021年度生
	本学卒・院修	他大卒		
英文学、芸術学、経済学、法と経営学	647,750	797,750	686,000	—
フランス文学	647,950	797,950	686,200	—
社会学、社会福祉学	649,250	799,250	687,500	—
社会福祉学（3年制コース）	480,100	630,100	477,500	517,500
国際学	650,750	800,750	689,000	—
心理学（心理学コース）	729,750	879,750	768,000	—
心理学（臨床心理学コース）	799,750	949,750	838,000	—
教育発達学	729,750	879,750	768,000	—

（単位：円）

博士後期課程	1年次		2年次	3年次
	2023年度生		2022年度生	2021年度生
	本学卒・院修	他大卒		
英文学、芸術学、経済学、経営学	648,600	798,600	646,000	686,000
フランス文学	648,800	798,800	646,200	686,200
社会学、社会福祉学	650,100	800,100	647,500	687,500
法律学	651,600	801,600	649,000	689,000
国際学	651,600	801,600	649,000	689,000
心理学	650,600	800,600	648,000	688,000

* 1年次の金額には他大卒の学生のみ入学金150,000円を含む。

（本学学部、本学博士前期課程・修士課程、専門職学位課程出身者の場合は入学金が免除）

* 最終年次に校友会終身会費40,000円を含む。（本学卒・本院卒で既に納入済の者は不要）

<高校・中学校（年額）>

(単位：円)

	1年次		2年次	3年次	
	移行生	他校出身		移行生	他校出身
明治学院高等学校	－	1,097,822	677,384	－	697,018
明治学院東村山高等学校	1,132,000	1,152,000	892,000	832,000	837,000
明治学院中学校	－	1,173,000	848,000	－	908,000

* 明治学院高等学校の1年次は入学金275,000円を含む。

* 明治学院東村山高等学校の1年次は入学金280,000円（移行生は260,000円）を含む。

* 明治学院中学校の1年次は入学金280,000円を含む。

5. 設置する学校の役員・評議員・教職員数

(1) 役員 理事定員22～24名(現員24名) 監事定員2～4名(現員2名) (2024年3月31日現在)

役職	氏名	就任年月日	主な現職等	非業務執行理事
理事長	山崎 雅男	2020.6.5	理事2020.6.1就任	
理事	鵜殿 博喜	2022.4.1	学院長	
理事	村田 玲音	2020.4.1	明治学院大学学長	
理事	永野 茂洋	2022.4.1	明治学院大学副学長	
理事	中野 聡子	2022.4.1	明治学院大学副学長	
理事	今尾 真	2022.4.12	明治学院大学法学部長	
理事	富山 英俊	2022.4.12	明治学院大学文学部長	
理事	徳永 望	2022.4.1	明治学院高等学校校長	
理事	大西 哲也	2023.4.1	明治学院中学校・東村山高等学校校長	
理事	櫛田 健一	2021.4.1	法人事務局長	
理事	杉村 佐壽	2020.6.1	総務担当理事	
理事	大海 龍生	2020.6.1	財務理事	
理事	和田 道雄	2020.6.10		
理事	塚本 京子	2020.6.1		
理事	合田 隆史	2023.4.1		○
理事	大江 浩	2020.6.10		○
理事	高松 牧人	2020.6.1		○
理事	三宅 宣幸	2020.6.1		○
理事	金子 宏美	2020.11.1		○
理事	小滝 秀明	2020.6.1		○
理事	小檜山 ルイ	2020.6.1		○
理事	塚越 敏夫	2020.6.1		○
理事	西田 一郎	2020.6.1		○
理事	西原 良信	2020.6.1		○
監事	辻 泰一郎	2020.6.10		
監事	真崎 修	2022.6.1		

*非業務執行理事および監事については、各人と責任限定契約を締結

*各役員の最低責任限度額に適應する役員賠償責任保険(保険期間1年間)に加入

(2) 評議員 定員45～49名(現員49名) (2024年3月31日現在)

氏名	氏名	氏名
青山 尚史	坂口 緑	西原 良信
天野 愛子	芝間 衛	芳賀 繁浩
李 省展	鈴木 敏彦	羽田 隆
飯 謙	孫 永律	原田 健一
飯田 雅彦	高須賀 伸成	廣田 光司
井上 隆司	高辻 智長	藤掛 順一
植木 献	高松 牧人	松岡 良樹
蛭原 健介	高良 研一	松田 真二
大江 浩	竹越 浩一	宮内 隆
大塩 光	武部 信隆	三宅 宣幸
大村 真樹子	田丸 修	森 あおい
勝俣 幸洋	塚越 敏夫	森 千草
君島 庸子	辻 直人	森内 美夫
黒米 忠一	富岡 美夫	吉村 哲也
合田 隆史	長岡 宣好	和田 道雄
小滝 秀明	中野 薫	
小林 敏	西田 一郎	

(50音順で記載)

(3) 教職員

		法人	大学	高等学校	東村山高等学校	中学校	合計
常 勤	教 員	0	290	0	0	0	290
	教 諭	0	0	47	35	21	103
	準 宣 教 師	0	0	1	0	0	1
	常 勤 講 師	0	0	2	2	0	4
	助 手	0	14	0	0	0	14
	副 手	0	1	0	0	0	1
	職 員	9	170	6	6	1	192
	学 院 牧 師	1	0	0	0	0	1
	音 楽 主 任 者	1	0	0	0	0	1
	主 任 カ ウ ン セ ラ ー	0	1	0	0	0	1
	ボランティアコーディネーター	0	2	0	0	0	2
	主 任 教 学 補 佐	0	6	0	0	0	6
	教 学 補 佐	0	32	0	0	0	32
	特 別 嘱 託 職 員	1	11	1	1	0	14
	専 任 保 健 師	0	4	0	0	0	4
	障がい学生支援コーディネーター	0	4	0	0	0	4
	宗 教 部 主 任 職 員	0	2	0	0	0	2
	宗 教 部 常 勤 職 員	0	0	0	0	0	0
	特 別 契 約 助 手	0	1	0	0	0	1
	特 別 契 約 カ ウ ン セ ラ ー	0	1	0	0	0	1
特 別 契 約 職 員	3	11	0	0	0	14	
常 勤 小 計	15	550	57	44	22	688	
非 常 勤	客員教授・特命教授・非常勤講師	0	812	45	24	8	889
	客 員 研 究 員	0	2	0	0	0	2
	非 常 勤 嘱 託 職 員	0	34	0	0	0	34
	特別ティーチング・アシスタント	0	35	0	0	0	35
	ティーチング・アシスタント	0	16	0	0	0	16
	心理臨床センターカウンセラー	0	2	0	0	0	2
	心理臨床センターアシスタントカウンセラー	0	4	0	0	0	4
	ス ク ー ル カ ウ ン セ ラ ー	0	0	1	1	1	3
	ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー	0	1	0	0	0	1
	研 究 調 査 員	0	1	0	0	0	1
	法 人 特 任 研 究 員	2	0	0	0	0	2
	非 常 勤 職 員	0	108	10	3	2	123
	非 常 勤 小 計	2	1,015	56	28	11	1,112
総 合 計	17	1,565	113	72	33	1,800	

(2023年5月1日現在)

第2章 2023年度事業の概要

1. 法人

(1) 事業計画

- ① 明治学院の教育 <教学>
- ② キリスト教活動 <教学>
- ③ 学校法人の自律的なガバナンスの改善と強化
- ④ 積極的な募金活動の推進 <財務>
- ⑤ 明治学院の財政基盤の強化に伴う奨学金給付の拡充 <財務>
- ⑥ キャンパスの有効活用および施設・設備の効率的整備の推進 <施設>
- ⑦ 危機管理体制の構築の推進 <教学・施設>
- ⑧ 文化活動 <教学>
- ⑨ 株式会社明治学院サービスとの連携強化 <教学・施設・財務>

(2) 事業計画の進捗状況

※ ◎は中期計画掲載案件、○は短期案件を表す。

① 明治学院の教育 <教学>

◎【明治学院教育ビジョンの推進】

2011年3月に「明治学院一貫教育宣言」を発信し、中学校、高校、大学が目指す生徒像、学生像を明らかにしつつ、明治学院に流れる共通の理念を確認した。2015年度には宣言の理念に基づき、「明治学院教育ビジョン」を策定し、その具体化に取り組んできた。

この「明治学院教育ビジョン」に基づき、具体的な計画と実行を目指す中高大の教職員からなる5つのチームを結成し、第四期（2022年～2023年度）の活動を実施した。

(a) 5つのチームの主な活動報告

1) 中高大テキスト作成プロジェクトチーム

2016年からの構想協議・編集作業を経て、2019年に中高大共通テキストとして完成した『ヤバいぜ！聖書（バイブル）』（新教出版社刊、B5版98頁、税込1,100円・明学生990円）は、2019年度から明治学院中学校・東村山高等学校、明治学院高等学校にて使用を開始し、2020年度には明治学院大学でも使用を開始、2021年度には学外の同志社高等学校でも使用された。また、「キリスト教書店大賞2021」で第3位に選ばれるなどの評価も得た。この活動を通して、中高大のキリスト教教育担当者同士の活発な交流・相互理解が促進されたことは大きな成果であり、2023年度もオンラインによる研修会を実施した。

2) キリスト教教育教職員研修プロジェクトチーム

全勤務員を対象として7年に1度、学院のキリスト教関係行事に参加し、よりキリスト教にふれる機会をもってもらうことを目的とした「ふれあい年」を2023年度も実施した。78名を対象に「ふれあい年招待状」「クリスマスカード」「2024年度カレンダー」を配付した。また、夏のリトリートとして白金キャンパスアートホールにてラビリンスを歩く黙想会を実施（17名参加）、春のリトリートは三鷹のナザレの家にて実施した（9名参加）。

3) 国際交流（留学）ワーキングチーム

国際交流（留学）に関する高大接続の企画として各種行事を開催した。「高校生対象語学講座（TOEFL IBT）」は7名の参加となり、受講生のスコアアップに貢献した。また、「明治学院大学で受け入れた留学生との国際交流イベント」として、明治学院高等学校の総合探究の授業に台湾・韓国からの留学生が参加した。大学国際センター主催の「大学OB・OGによる「留学×就職」オンライン講演会」について、中高にも参加を募り生徒・保護者合わせて16名の参加があった。

4) ボランティア教育プロジェクトチーム

大学ボランティアセンターのプログラム「1 Day for Others」や「ボランティアカフェ」等を中高にも告知し参加を募った。立地や学歴の違い等の問題もあり、中高からの参加人数は少なかったが、参加した生徒には積極的な姿勢が見られた。また、高等学校でボランティア活動をしているハイY部6名が大学ボランティアセンターを訪問し、見学するなどの交流が行われた。

5) キャリア支援プロジェクトチーム

キャリアデザイン講演会（東村山高等学校にて4回）や進路や職業選択のためのアセスメントテスト（明治学院高等学校にて1回）を実施した。

(b) その他の一貫教育に関連する活動報告

1) 横浜キャンパスプロジェクト「J.C.バラ・プログラム」

系列校の入学予定者を対象とした入学前教育プログラムを実施した。参加者は明治学院高等学校110名、東村山高等学校125名、計235名であった。大学生スタッフ58名による様々な企画が行われ、アンケートでは高い満足度が報告された。

2) 系列校特別推薦入試

明治学院の一貫教育の成果を高めるため、前年度に引き続き、大学がS推薦・チャレンジ推薦を含めた系列校特別推薦入試を実施した。その結果、高校119名、東村山高校132名、計251名が明治学院大学に進学した。詳細は下記の通り。

年度\推薦		S推薦 大学入学者	A推薦	B推薦	チャレンジ 推薦	計
高等学校	2019年度	2	31	94	2	129
	2020年度	4	26	105	2	137
	2021年度	3	25	86	5	119
	2022年度	4	22	96	4	126
	2023年度	1	20	96	2	119
東村山 高等学校	2019年度	4	24	77	2	107
	2020年度	2	33	85	1	121
	2021年度	1	38	82	0	121
	2022年度	1	35	93	0	129
	2023年度	4	25	102	1	132

3) 東村山高校の授業「アカデミックリテラシー」(明治学院大学への進学希望者対象)について、2019年度より大学入学後の単位として認定されており、制度として継続されている。

② キリスト教活動 <教学>

◎ 【礼拝の充実】

北川学院牧師が担当するチャペルアワーで運動部に所属する学生をメインの対象とする「アスリートデイ」を実施した。また、キリスト教学校(高校)出身者を中心に、新入生に宗教部の活動を知らせるとともにキリスト教を軸とした友達づくりを促すことを目的とした「チャペル懇親会(通称:チャペコン)」を白金・横浜両方の校地において、年複数回実施した。

○ 【年間主題聖句の選定・活用】

「学校法人明治学院年間主題聖句」は教職員のほか学生・生徒に対してもキリスト教の教えが伝わるように意識して選定した。

2023年度 明治学院 年間主題聖句

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(新約聖書・ヨハネによる福音書3章16節)

この聖句を多くの教職員や学生・生徒が意識できるように、入職式礼拝や入学式・卒業式等式典で紹介し、学院正門掲示板および学院ホームページ等で広く知らせた。

◎ 【勤務員キリスト教学校教育セミナーの実施】

2023年は3年ぶりで対面開催となり、午前は対面とオンライン併用の講演会、午後は分科会を開催した。

＜勤務員キリスト教学校教育セミナーテーマおよび参加者数＞		(敬称略)
年度	テーマ (講師ほか)	参加者数
2018年度	近代日本150年—私たちはどう考えるか (高橋源一郎)	90
2019年度	明治学院 私たちの新しい歩み方 (内田樹)	85
2020年度	コロナ禍のため中止	—
2021年度	キリスト教学校の未来予想図 (西原廉太)	105
2022年度	悲しみのシェアが出来ない時代に (塩谷直也)	90
2023年度	「それでも生きる——『コヘレトの言葉』から」 (小友 聡)	58

◎ 【キリスト教会等との対外活動】

日本基督教団東京教区南支区との共催で、「ペンテコステの集い」を5月28日(日)に3年ぶりに対面にて開催した。本学院の北川善也学院牧師が司式を、東京教区南支区伝道委員長の小川洋二長原教会牧師が説教を担当、明治学院高等学校ハイグリー部が献唱した。

◎ 【キリスト教への理解の促進】

キリスト教学校教育同盟の事務職員夏期学校を始め各種研修会・リトリートについて積極的に告知、勤務員セミナーについても年度当初の入職説明会や学部長会等にて案内した。

③ 学校法人の自律的なガバナンスの改善と強化

◎ 【学校法人の自律的なガバナンスの改善と強化】

- (a) 学校法人として以下の事項に重点を置いた自律的なガバナンスの改善、体制強化を図った。
- 1) 私立学校法改正(2025年4月1日施行)に対応するため、理事・監事・評議員の構成の見直しを図った。
 - 2) クリスマンコードに関する検討会を発足し、キリスト者条項のあり方について検討を始めた。
 - 3) 中期計画(2020～2024年度)について、予算と事業の2023年度の検証を実施した。
 - 4) 日本私立大学連盟私立大学ガバナンス・コード【第1.1版】に基づき、遵守状況報告書を再点検した。
- (b) 法人部門と大学執行部との間で定期的に行われている懇談会を継続し、教学と経営の両輪を円滑に駆動させて、法人全体のガバナンスを強固なものとし、教育環境整備を最優先課題として法人運営を行った。
- (c) 会計士監査、監事監査および理事会直轄の監査室の連携を強化し、三様監査の実効ある運用を継続した。特に公的研究費の管理・監査については、重点項目として詳細に実施した。また監事の理事・理事会への牽制機能の強化のもと、緊張感のある理事会運営が行われた。

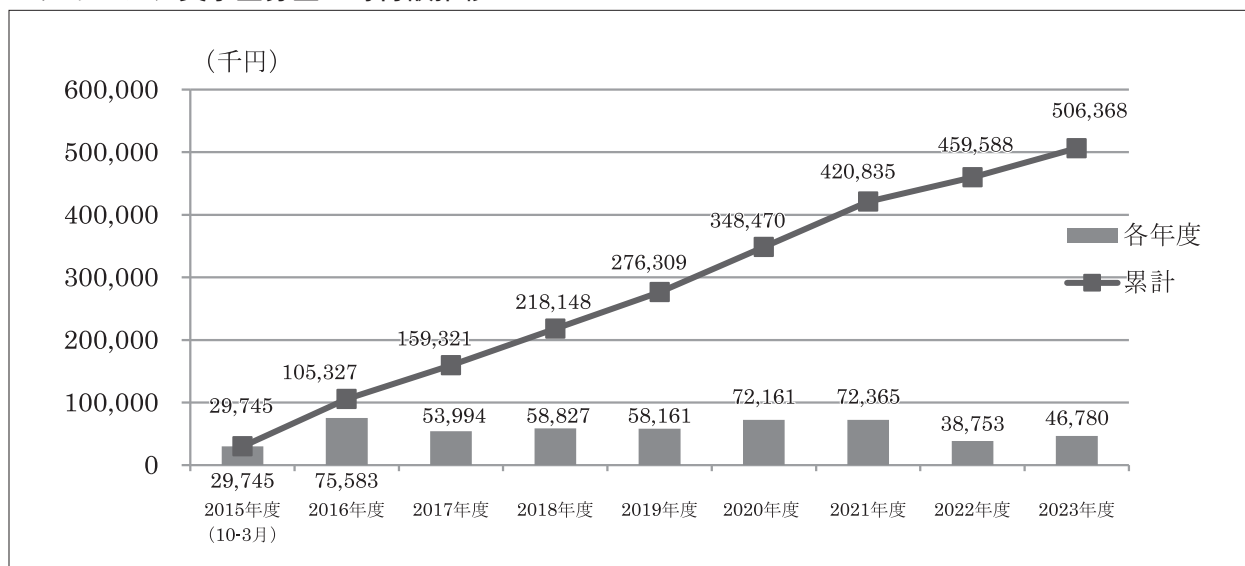
④ 積極的な募金活動の推進 <財務>

◎ 【中・高・大学および学校法人による募金活動の推進】

- (a) 「明治学院大学チャレンジ奨学金募金」の継続

大学においては、2015年度から開始した「明治学院大学チャレンジ奨学金募金」(目標額6億円 募集期間2024年3月末)の最終年度を迎えた。インターネットを活用して卒業生等への呼びかけを強化するとともに、寄付者の裾野を広げるため「2,000円、5,000円のコンビニ専用定額振込用紙」を活用し、本募金への協力を幅広く訴えた結果、13,262件、506百万円の寄付を頂くことができた。

<チャレンジ奨学金募金の寄付額推移>



- (b) 高校においては、在校生の保護者に高校教育充実のための「教育振興資金」（目標額18百万円募集期間2024年3月末）を依頼し、72件12百万円の寄付を頂くことができました。
- (c) 中学・東村山高校においては、在校生の保護者に教育条件・環境の充実のための「教育振興資金」（目標額30百万円 募集期間2024年3月末）を依頼し、81件12百万円の寄付を頂くことができました。
- (d) 学校法人においては、創立150周年を記念するために行った寄付の一部を活用した「明治学院ぶどうの木奨学金基金」*（キリスト教会牧師が扶養する中学生と大学生を対象とする奨学金）の充実を図るため、主に卒業生・教職員・企業に対して引き続き募金活動を推進した。
- *「ぶどうの木奨学金基金」は2012年4月から始まり（2023年度は11年目）、この間に奨学金を受給した学生は延べ人数で100余人とり、明治学院独特の奨学金に多くの牧師から感謝が寄せられている。

⑤ 明治学院の財政基盤の強化に伴う奨学金給付の拡充 <財務>

◎【明治学院の財政基盤の強化】

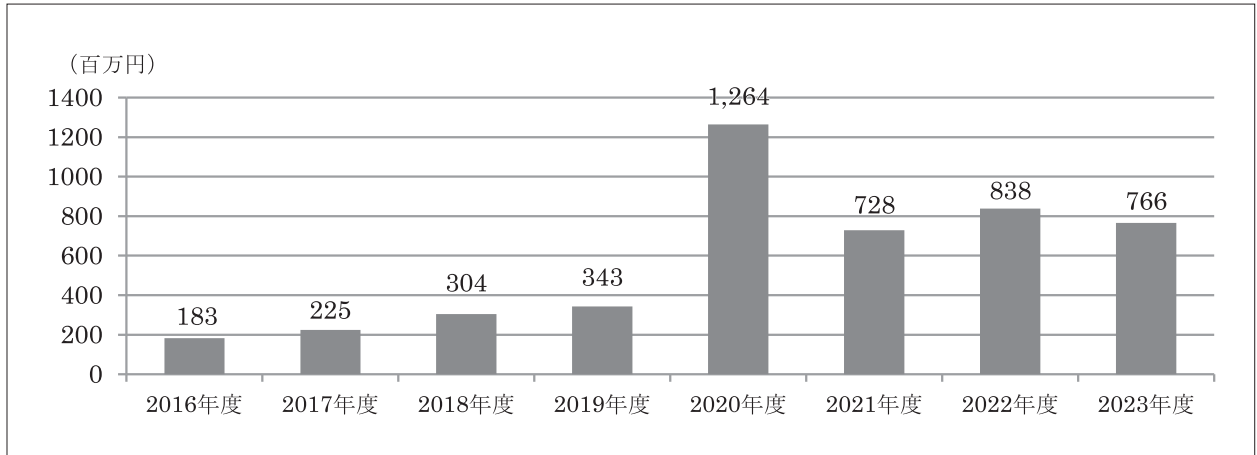
- (a) 学校法人を取り巻く環境（少子化の進展、政府の教育政策、ライバル校の動き、社会の変化）はますます厳しくなり、私立大学の3分の1は定員割れの状況が続き、さらに少子化の進展によりかつては250万人台であった18歳人口は2040年には約80万人となると推計されている。
- (b) 2023年度は、過年度に発生した大学入学定員に対する欠員分（4年間合計△246人）という要因を補充したうえで、新学部にも定員の7.4倍の志願者を得ることができた。
- (c) これらの課題に対応するためには、引き続き財政基盤の強化に繋がる収入の安定的な確保と「予算のPDCA」を回した適切な予算編成および資金の効率的活用を図ることが重要となる。しかし、2023年度は中期財政計画の数値目標（①経常収支差額比率10%以上②当年度収支差額が事業活動収入の1%以上③日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標A2以上）は達成できなかった。
- (d) 学生生徒等納付金以外の収入源（手数料収入、補助金収入、施設設備利用料収入、受取利息・配当金収入等）の確保に向けて諸方策を推進するとともに、支出の部としての教育研究経費の効果的配分に努めた結果、学院の目標としている教育研究経費比率30%以上を超え、34.2%になった。
- (e) 第3号基本金の拡充
 大学第3号基本金＝「対象となる資産は、元本を継続的に保持運用することによって生じる果実を教育研究活動や奨学金給付に使用するために設定したもの」で、財政基盤強化のための重要項目となっている。
 国から支給される「高等教育無償化」の対象とならない経済的困難を抱える学生に対して、明治学院大学独自の給付型奨学金（「へボン給付奨学金」）を支給する財源を安定的に確保するため、2023年度においても大学第3号基本金の積み増しを計画的に実行することができた。（2023年度末の第3号基本金引当特定資産は11,500百万円）
- (f) 第2号基本金の拡充
 各設置校別の第2号基本金は2023年度末において、大学が12,127百万円、中学・東村山高校

が570百万円となった。

◎ **【奨学金給付の拡充】**

学業支援のため引き続き奨学金支給の増加に努めた。大学・大学院では①経済的支援②留学生対象（認定留学を含む）③学業優秀者④研究活動への支援⑤難民高等教育プログラム等への支援を行った。

<学院全体の奨学金の推移>



⑥ **キャンパスの有効活用および施設・設備の効率的整備の推進 <施設>**

◎ **【中・高・大学によるキャンパスの有効活用および施設・設備の効率的整備】**

- 大学においては、情報数理学部開設に向け施設設備の整備に注力した。加えて、各種教育改革の変化に対応する施設要望の実現化に向けて、迅速に対応できる体制を引き続き維持した。
- 高校においては、グラウンド復旧工事が2023年5月に終了し、一連の校舎改築の工程を無事に終えることができた。温水プールの蒸気配管については、老朽化による蒸気漏れが発生したことから更新工事を実施した。本館・体育館の長期的な設備維持計画については、今後必要となる補修工事等の検討を進めた。
- 東村山キャンパスにおいては、2023年度の大型工事として、高校棟西側全階のトイレ改修工事、および受変電設備の更新工事を実施した。中学棟・講堂棟の建て替えに向けて、中期的な視野から検討課題の抽出および他校事例（校舎建築実施先）の研究等を目的とした教職員10名からなる「第一次検討部会」を立ち上げ、活動を開始した。

⑦ **危機管理体制の構築の推進 <教学・施設>**

◎ **【事業継続のための危機管理体制の構築の推進】**

- 自然災害や感染症拡大等に備えて教育と研究の環境を持続していくため、事業継続計画（Business Continuity Plan）の精査を継続した。
- 各学校において、災害時に必要となる基本備蓄品（水、食料の他、災害時必需品）の備蓄を維持し、第一次避難所のほか帰宅困難者受入（白金キャンパスのみ）の際にも活用できるよう備蓄率向上に努めた。
- 「白金高輪駅周辺滞留者対策推進協議会」「戸塚区災害対策連絡会議」など、各学校において、行政との基本連携協定等に基づく、地域の防災・防犯活動に参画した。
- 中期計画で実施している大学の非構造部材耐震対策工事（天井落下防止措置）は、2023年度は白金・横浜両キャンパスとも残された予定部分の対策案の検討を行った。
- 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、「5類感染症」に移行されたことにより、段階的に感染症対策を緩和させた。ただし、引き続き、学生生徒・教職員への基本的感染症対策（手洗い、換気）の励行は継続した。

⑧ **文化活動 <教学>**

◎ **【ミュージアム・ビジョンの促進】**

歴史資料館は、2020年度に策定した「ミュージアム・ビジョン」に基づいて、その業務形態を学生・生徒、教職員、同窓生との共創的事業モデルへと進化させることにより、本学院の歴史資料を探求することによる「知の楽しみを分かち合う」博物館文化の創造を促進した。

- (a) 学院内の各組織や同窓会の協力を得て、資料の収集と学院史に関わる資料の資料館への寄贈・移管等を進めた。
- (b) 「明治学院歴史資料館デジタルアーカイブズ」を充実させるため「白金学報」の画像化準備を進めた。歴史資料館Webサイトの全面リニューアルを実施し、学内外の利用者に広報強化を図り貢献した。
- (c) オンライン目録作成業務の質的向上を図るため、目録データ構築を始めとした学生の資料館事業への多面的な参加を積極的に促進した。
- (d) 歴史資料館が所蔵している井深梶之助明治学院第二代総理の日記（44冊）の翻刻を開始し、キリスト教研究所との協働により『井深梶之助日記 明治編』を刊行した。
- (e) 展示室での常設展・企画展により、歴史における明治学院の成り立ちを表現した。また、2年ぶりに一般開放した展示室の利用促進のために、港区ミュージアムネットワークでの広報を行った。
- (f) 白金キャンパスの歴史的建造物3棟の保全事業（レーザースキャン測定による3D点群データの保管）の動画を製作会社の事例紹介として横浜のイベントで発信した。
- (g) 学院関係者（井深梶之助・賀川豊彦・沖野岩三郎等）の館蔵墨蹟資料の研究成果を『明治学院歴史資料館資料集 第二十集』として刊行した。
- (h) 授業支援では従来の展示室見学にとどまらず、東京文化財ウィークで学生との協働展示を実施し、博物館文化「共創」プログラムをより一層促進した。
- (i) 2022度に引き続き、学生・生徒対象のインブリー館（重要文化財）の見学を促進した。

◎【明治学院オルガン講座の実施】

白金キャンパスのオルガン講座について、高校の受講者は高校礼拝・アドヴェント礼拝・高校PTA主催チャペルコンサートで演奏の機会がある。大学の受講生は大学チャペルアワー、クリスマスキャンドルライトサービスにおける奏楽（白金キャンパス）、大学オープンキャンパス、白金祭などで演奏の機会がある。

2023年度白金キャンパスのオルガン講座は、延べ41名（高校生19名、大学生22名）が受講（2022年度34名）し、横浜キャンパスのオルガン講座は、大学生20名が受講した。

◎【教育遺産としての歴史的建造物の広報と活用】

コロナ禍により参加を控えていた東京都主催の「東京文化財ウィーク」に参加した。文化財3棟の内部の公開に合わせ、大学生によるパイプオルガンコンサート（11/2実施）、記念館のメーソン&ハムリン社製のリードオルガン演奏（11/1～11/3の3日間、各日3回実施）を特別イベントとして開催した。

⑨ 株式会社明治学院サービスとの連携強化 <教学・施設・財務>

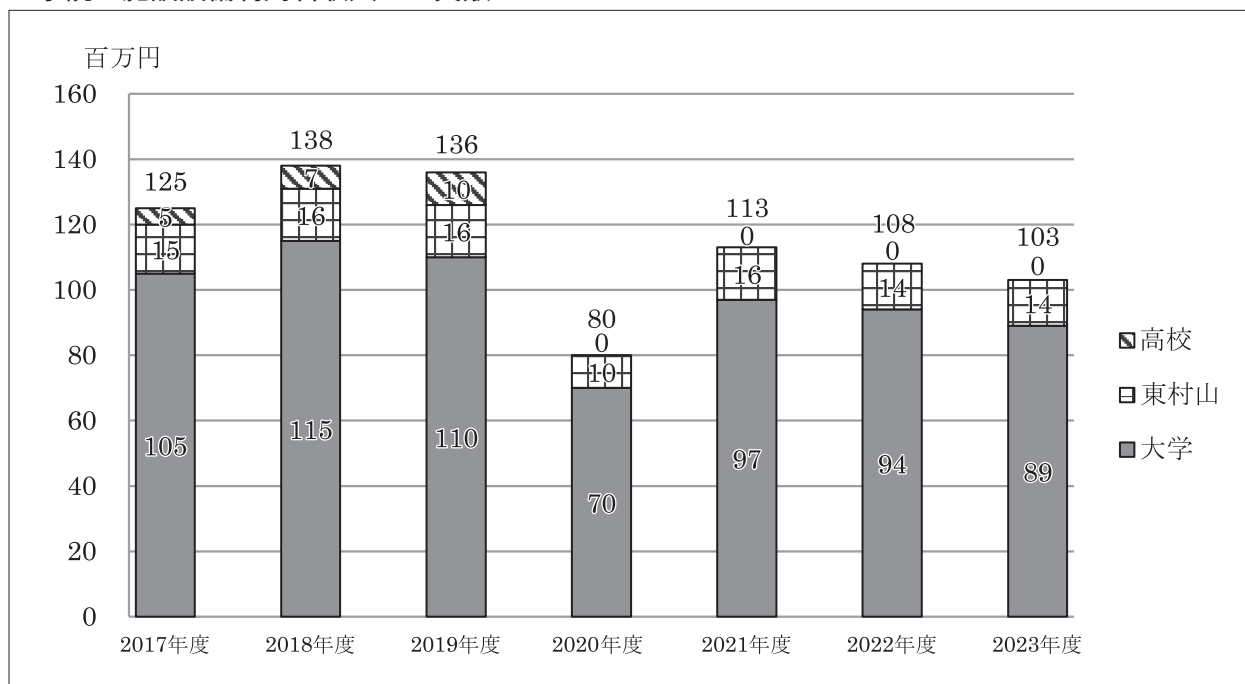
○【学院の業務効率化と中期計画への連携】

学校法人明治学院が全額出資（資本金15百万円）している株式会社明治学院サービスは、1998年1月に設立し2023年度には設立26周年を迎え、社員数115人（正社員、嘱託社員、派遣社員他）を擁して堅実に発展してきた。2023年度は法人、大学、高校、中学・東村山高校が行う様々な教育研究活動と協力し、特に各部門が中期計画に掲げている諸項目に関しての連携を一層強化した。

○【株式会社明治学院サービスの主な営業部門】

損保代理店業務・人材派遣業務・施設設備（教室）の外部貸出業務・学生のお部屋探し業務・受託業務（守衛警備、白金・横浜キャンパス総合カウンター、学生食堂、学生寮管理、自販機設置、購買店）があるが、2023年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、学生の安全を確保しつつ学生生活の満足度向上のための努力を続けることができた。

<学院の施設設備利用料収入への貢献>



<株式会社明治学院サービスの業績推移>

(千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	825,734	859,153	840,291	843,755	914,949	831,100	872,565
当期利益(税引後)	7,620	7,352	4,883	△ 2,565	7,028	10,467	7,034
繰越利益剰余金	105,505	112,857	117,741	115,176	122,204	132,671	139,705

2. 明治学院大学

(1) 事業計画

- ① 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>
- ② 教学改革と教育改善の推進 <教学>
- ③ グローバル教育の充実 <教学>
- ④ ボランティア活動の充実 <教学>
- ⑤ キャリアサポート体制の充実 <教学>
- ⑥ 学生へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化 <教学>
- ⑦ その他の計画 <教学>
- ⑧ 施設および設備の充実 <施設>
- ⑨ 人事体制の強化・整備 <人事>

(2) 事業計画の進捗状況

2021年度より、明治学院大学の事業計画は、学校法人明治学院中期計画（2020-2024）に基づく施策ならびに単年度計画のうち重点的に取り組む施策を中心に記載しており、その計画に基づき、報告を行う。

※ ◎は中期計画掲載案件、○は短期案件を表す。

① 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>

◎【建学の精神の浸透】

チャペルアワーは対面での実施へと戻し、黙想形式の「アスリートデイ」、毎月の「英語礼拝」、ウクライナ招聘研究員による「出張チャペルアワー」、地域に開放した「クリスマスオルガンコンサート」、学生有志による「クリスマス礼拝聖歌隊の合唱」、キリスト教学校教育同盟校出身者を対象とする「入学前交流会」などの新たな取り組みを実施した。

② 教学改革と教育改善の推進 <教学>

◎【教学改革に対する財政支援】

将来的に全学部の学生に展開できるような取り組みへの支援を行う「学長プロジェクト」、各学科の教育の特徴を際立たせる取り組みへの支援を行う「学長裁量的予算枠プロジェクト」を用意し、各プロジェクトの成果報告会を行った。本制度は2023年度で区切りとなったが、「21世紀型リベラルアーツ教育のための教材・カリキュラム開発と実施：グローバル・シチズン育成を目指して」は「明治学院共通科目」として2024年度より全学展開を果たすことになった。

学長プロジェクト	①「内なる国際化」に対応した人材の育成 ② 21世紀型リベラルアーツ教育のための教材・カリキュラム開発と実施：グローバル・シチズン育成を目指して
学長裁量的予算枠プロジェクト	① 実験経済学・行動経済学プロジェクトの展開 ② 国際化教育の展開と検証 ③ LLTS [Learning to Live Together Sustainably] - 持続可能な共生社会を目指すグローバルシチズンシップ涵養のための教育 -

◎【理系学部の設置】

今後の情報化社会を担える人材を育成するため、2024年度に理系の新学部・情報数理学部を横浜キャンパスに設置する準備を進めた。2023年3月に文部科学省へ学部設置の認可申請を行い、2023年9月に認可を受けた。同時に、既存の学部・組織との有機的な連携を目指して《情報科学融合領域センター》の設置も進め、明治学院大学が掲げる教育理念のもと、次世代の技術を用いた人間中心の未来社会の実現に向け取り組んだ。

◎【教育の範囲や内容の拡充】

近年、AIやICTが普及し、文系の学生にも、人工知能についての理解やデータ処理能力が要求されるようになった。今後の情報化社会にしっかり対応していける教育内容を学生に提供するため、2023年度に全学生を対象とした《AI・データサイエンス教育プログラム》を開始した。初級レベルの「AI・データサイエンス入門」には2,469名の履修があった。

◎【アクティブ・ラーニング授業充実のための支援】

全面的に対面授業へ戻ったことにより、アクティブ・ラーニング対応教室の稼働率が向上して

いる。引き続きオンライン授業サポートページを学生向け、教員向けに提供し、ZoomやTeamsなどを有効活用することでグループディスカッション等、アクティブ・ラーニングの機会を充実させた。

○【遠隔授業運用支援】

講義収録配信支援システムを2021年度から導入している。2023年度は「AI・データサイエンス教育プログラム」のオンライン教材配信に使用し、2,000名以上の利用があった。

○【Webを活用した授業評価アンケートの推進】

春・秋ともにトラブルなく実施した。教員が過去の授業評価結果を参照・集計可能にするための教員マイページを実装した。

◎【大学院における定員未充足問題への対応】 ※認証評価事項

日本語学校教員対象や日本語学校での進学相談会に参加した。また「日中留学推進機構」のオンライン留学フェアにも参加し、動画共有サービスとメッセージアプリ合わせて2,748名のアクセスがあった。

◎【研究支援】

2023年度は科学研究費助成事業の応募率11.3%（研究者数355名・応募40件）、新規採択率37.5%（採択15件）となり、昨年度の応募率、応募件数を上回った。

③ グローバル教育の充実 < 教学 >

◎【協定校とのパートナーシップの構築・強化】

海外大学・機関（ハワイ大学マノア校・トウレーヌ学院・ソウル国立大学）とのオンラインプログラムを1件主催して実施し16名が参加した。留学プログラムもほぼすべて再開し、海外派遣学生の総数は501名となった。

◎【留学準備や国際的視点を養うためのサポート体制の整備】

留学する学生の渡航前・帰国後研修、留学を経験した学生が留学を志す学生を支援するピアサポートの研修・体制構築、国際貢献インターンシップ・プログラムの研修を外部業者に委託して11のイベントを実施し、のべ451名が参加した。インスタグラム上でのコンテンツの作成なども行った。

◎【留学生と日本人学生の交流の活性化】

対面のイベントを5回実施し、124名が参加した。通年のバディプログラムには留学生・一般学生合わせて52名が参加した。バディ活動においては、定期ランチ会を開催することでグループごとに盛んな交流が行われた。

○【SDGsフィールドスタディーズの開催】

渡航型のプログラムを再開し、説明会には55名が参加した。夏季にベトナム、春季には新たにフィリピンでプログラムを実施し、各回定員上限の15名ずつを派遣した。オンラインプログラムは、引き続き外部業者によるフィリピンのインターンシップを実施した。

④ ボランティア活動の充実 < 教学 >

◎【ボランティア・サティフィケートの推進】

2023年度の登録生は、39名中、25名（64%）がインテグレーション講座に参加した。直近3カ年の平均受講率は約60%となっている。

◎【すべての大学関係者によるボランティア活動を促進する】

いつでも申請できるボランティア支援制度「いつでもボランティアチャレンジ（いつボラ）」について、チラシデザインの更新をはじめ、冊子やホームページでの広報活動を行った。

○【1 Day for Othersの見直し】

新たに9団体とプログラムを実施し、学生に多様なプログラムの提供をすることが出来た。

○【ボランティアセンターと社会連携課との連携】 ※認証評価事項

港区との協働連携推進事業である「チャレンジコミュニティ大学」は2023年度に開校17年目を

迎え、修了生は900名を超えるまでになっている。また、チャレンジコミュニティ大学修了生の活動へ本学学生が延べ33名参加するなど、交流・連携を維持している。JR東日本や地域の方々と協働して、3年目を迎えた高輪ホップコミュニティ活動は、ボランティアセンターと社会連携課との協働事業として参加し、選抜された12名の学生を派遣した。

⑤ キャリアサポート体制の充実 < 教学 >

◎ 【就職活動支援講座の充実、キャリアデザインに資する教育の充実】

キャリアデザインのための正課授業の認知推進、MGキャリア講座等の就職支援プログラムを実施した。また、2021年度からの新システム「MGキャリアクルー」の広報を強化し、3年次の利用率は62%となった。

○ 【相談体制の充実（キャリアセンター）】

相談枠の適正化に努めつつ、経験年数の浅い職員に対して、特定非営利活動法人日本キャリア開発協会による「キャリアカウンセリング技能向上研修」を行い、カウンセリング技術の向上を図った。

○ 【学外機関等と連携した就職支援の充実】

「東京しごとセンター」派遣の講師によるグループディスカッション講座を実施した。ホテル白金会との連携による就職支援の取り組み「ホテル業界OBOG交流会」は、当初3月の開催を予定していたが、昨今の就職・採用活動の早期化等に伴う学生ニーズの変化に対応すべく、新入生も参加可能な翌年度4月に開催時期を変更した。

○ 【発達障がい（傾向を含む）をもつ学生を意識した就労等支援の充実】

発達障がいの特性をもつ学生に対し、キャリアセンターや就職支援を行っている企業とも連携しながら、就職活動に必要な自己理解やスキルを獲得するための支援を行った。対面方式の講座も計画しており、次年度実施の予定である。

○ 【企業との連携強化】

様々な企業・団体から協力をいただき、寄付講座・パートナーシップ講座を開講し、実社会での現場経験を踏まえた教育の提供を推進した。

	提供元企業・団体
寄付講座・ パートナーシップ講座	野村證券株式会社、ファーストリテイリング財団、三菱UFJ信託銀行、 日本赤十字社、金融経済教育推進会議、日興リサーチセンター株式会社

⑥ 学生へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化 < 教学 >

◎ 【学業支援（奨学金）の再整備】

2023年度は、より公平感のある運用を行うことで「経済事情による退学者」の削減を目指し、無償化（修学支援新制度）とへボン給付奨学金を併給している現行制度を検証し、制度の見直しを図った。告知期間を経て、2025年度より運用を開始する。

◎ 【多文化共生を担う学生サポートスタッフの育成】

オンライントレーニングシステムの活用による学生サポートスタッフの体系的養成を実施し、スタッフ数は堅調を維持している。また、障がいに関連する講演会・ワークショップを実施した。

⑦ その他の計画 < 教学 >

◎ 【首都圏以外からの学生（特別入試も含めて）の確保】

ジオターゲティング（GPSの位置情報を用いて特定の者に広告を表示させる方法）による入試広報の強化を行った。主に札幌、仙台、静岡、福岡でイベントの広報を行ったほか、関西エリアでも一部広報を展開した。One Day Campusの来場者数は、仙台会場を除き前年度を上回り、地方入試の志願者数については全体で前年度を上回った。北関東エリアでの成蹊大学、成城大学、明治大学、青山学院大学、明治学院大学合同ガイダンスや、國學院大學、成城大学、獨協大学との合同説明会にも参加し、多くの来場者と接点を持つことができた。

○ 【入試業務のオンライン化】

ほぼ毎月、オンラインで大学紹介と入試説明をそれぞれ2回ずつ実施した。また、国際学部国際

学科と国際キャリア学科では、4月入学希望者と9月入学希望者を対象とした入試制度（主に国外からの出願者を想定）において、オンラインで面接試験を実施した。

○【内部質保証体制の構築とその実質的な運用】 ※認証評価事項

現状の内部質保証体制を見直し、2024年度より新たな体制で行う準備を進めた。また指摘事項については学長から改善指示を発出し、一部の事項については改善が完了した。残りの事項についても、改善を推し進め、引き続き改善進捗状況を確認していく。

◎【広報力の強化】

(a) ターゲットを見据えた広報展開の継続

SNSの運用に関して、ツール自体の見直しなど都度最適な手法で若年層へのアプローチを続け、さらに高度なアプローチができるよう、新しい専門業者の選定を行った。

(b) プレスリリースの強化

教員の研究を切り口にしたプレスリリースをより意識し、教育研究の充実をアピールした。教員への取材依頼も増えており、よい反応を得ることができた。

(c) 大学Webサイトの充実

2023年度は「明学の理由。」を引き続き動画とテキスト合わせて制作した。学生、教員、卒業生それぞれの掲載を増やしたことに加え、対談企画なども充実させ、明学に関わる人の魅力を伝えることで、本学の特色を示す重要なコンテンツに成長している。

◎【横浜キャンパスプロジェクトの推進】

(a) 通学対策

バス問題の解決のため、学期定期券の販売をキャンパス内で開始し、春学期4,442枚、秋学期4,202枚と、各学期3,700枚の予想を大きく上回る販売数となった。祝日授業日や帰宅時にも急行バスを大幅に増やし、待ち時間短縮の改善につなげた。

(b) ピアサポートの推進

キャンパスコンシェルジュは、在学生からの質問・相談対応以外にも多数の企画を立案・実施し、イベントをきっかけとした認知度アップにつなげた。

(c) 「社会貢献」活動の実施と学生への意識浸透

「環境・福祉・国際」を三本柱とする大学祭「戸塚まつり」は4年振りの完全対面開催となり、2日間合計で5,186名と、コロナ禍以前の来場者数を取り戻した。

(d) 飲食環境の充実

新校舎の飲食環境の検討に加え、既存のキャンパス全体の飲食環境の改善のために、学生による「ごはん部」も活発に活動を行い、新規キッチンカーアンケートには301名の生の学生の声が寄せられた。

○【生涯学習環境の充実】

2018年度より開設した「明治学院プラチナカレッジ」は6年目を迎えた。2023年度は全3シリーズで、延590名が参加した。

○【ハラスメント防止・対策に関する教職員への研修会（講演会）・啓発活動の強化】

2023年度は法学部協賛で対面の研修を実施し、大学だけでなく白金高校からの参加も含めて64名が参加し、後日教職員向けにオンデマンド配信も行った。

○【校友との絆の強化】

各地校友会は、6会場で開催した。また、「校友の集い」、「クリスマスプレゼント企画」、「会報誌の企画」の3点において、「大学生であったころを懐かしむ」、「今の大学を知る」内容の企画を推進し、校友の母校に対する肯定感向上を図った。

◎【環境問題への取り組み】

省エネルギーのための取り組みとして照明LED化工事を計画し、白金・横浜両キャンパスで予定通り実施した。

⑧ 施設および設備の充実 <施設>

◎【横浜キャンパスの整備】

情報数理学部の開設に合わせて、仮設校舎を竣工した。新校舎の建設作業にも着手していた。

◎【サテライトキャンパス（教室）の設置を目指す】

JR東日本を中心とした「高輪ゲートウェイ駅周辺地区スマートシティ実行計画策定委員会」にも参加しながら、サテライトキャンパスに適した候補地について、継続して調査を続けた。

◎【図書館における学生の主体的学びの推進】

学生の機器利用や行動の変化（持込デバイスの急増）に対応するため、デスクトップPCを一部撤去しモニターを設置するなど、様々なデバイスを接続し利用できるような環境整備を進めた。

○【教室・実習室のICT設備機器の充実】

白金2教室、横浜18教室のHDMI化（High-Definition Multimedia Interface）対応工事を実施した。これにより、203教室中199教室がHDMI化され、未対応は4教室となった。また鍵無しでAV機器やマイクが使用可能となるコンソールデスクを白金2教室、横浜2教室に設置した。

◎【防災計画】

食品備蓄については、数日間の滞在に必要な食数として、横浜キャンパスに32,968食、白金キャンパスに40,548食を備蓄した。

⑨ 人事体制の強化・整備 <人事>**◎【事務組織の見直しと強化】**

2024年度の情報数理学部の開設に備えて、事務組織の人員体制を強化した。また事務組織の再編・統合について検討を行い、総合企画室と自己点検推進室を学長室に2024年度に統合することになった。

◎【勤務員の就労環境の見直し】

2023年度は専任職員の定年延長問題の対応を優先させたほか、5年ぶりの賃金改定への対応を行うこととなった。なお、労使交渉の結果、職員の定年延長の問題は2024年度に検討することとなった。

(3) 教育研究の概要**① 教育方針に関する情報**

「人材養成上の目的・教育目標」および3ポリシー（カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を改定し、ホームページ等で公開している。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/about/doforothers/>

② 教員の保有学位、業績に関する情報

教員の保有学位や研究業績については、ホームページで公開している。

<https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp>

③ 卒業者数、卒業後の進路に関する情報

卒業者数、卒業後の進路については、ホームページで公開している。

https://www.meijigakuin.ac.jp/career/data/number_graduates/

④ 教育課程に関する情報

各学科・研究科のカリキュラムおよび卒業までの流れ、各授業科目の内容・授業の方法ならびに授業計画の概要を記載したシラバスについては、ホームページで公開している。また、2020年度生より、科目ナンバリングを適用し、授業の体系性・順次性を学生にわかりやすく示している。

各学科・研究科のカリキュラムおよび卒業までの流れ <https://www.meijigakuin.ac.jp/academics/>
シラバス <https://kyomu.meijigakuin.ac.jp/kyomu/UnSSOLoginControlFree>

⑤ 学修の成果に係る評価および卒業の認定にあたっての基準に関する情報

各授業科目の成績評価の基準については、ホームページで公開している。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/disclosure/>

⑥ 環境に関する情報

所在地や主な交通手段・キャンパスの概要については、ホームページで公開している。

所在地 <https://www.meijigakuin.ac.jp/disclosure/campus.html>

交通アクセス <https://www.meijigakuin.ac.jp/access/>

キャンパスの概要 <https://www.meijigakuin.ac.jp/campus/>

3. 明治学院高等学校

(1) 事業計画

〔教育・研究における重点分野〕

- ① 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>
- ② 教学改革と教育改善の推進 <教学>
- ③ 国際交流活動の推進 <教学>
- ④ ボランティア活動の充実 <教学>
- ⑤ キャリアサポート体制の充実 <教学>
- ⑥ 生徒へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化 <教学>
- ⑦ その他の計画 <教学>
- ⑧ 施設および設備の充実 <施設>
- ⑨ スクールコンプライアンス <総務・人事>
- ⑩ 財政基盤の強化 <財務>

〔生徒募集〕

- ⑪ 募集計画と入試結果

〔その他の特記事項〕

- ⑫ 『保護者の手引き』の作成
- ⑬ 校務体制の整備

〔大学合格者数の実績〕

- ⑭ 2020～2023年度大学合格者数

(2) 事業計画の進捗状況

〔教育・研究における重点分野〕

- ① 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>

◎ 【礼拝の充実】

日々の礼拝はキリスト者教職員、講師、学院関係者、学院牧師、準宣教師（英語礼拝）が中心となつて行い、学期に1回を目安にキリスト者ではない教職員によるアッセンブリー（講話）を実施した。また、礼拝暦に基づき、聖書講話・特別礼拝を教会の牧師、学校の教師、社会活動に従事しているキリスト者を招いて実施した。プロジェクターによる映像を用いた礼拝や、車椅子を利用しての奨励者を招いた場合などに礼拝ホールでの礼拝も複数回実施した。また、礼拝ホールに専用の講壇を設置した。

(a) 特別礼拝

(敬称略)

日付	特別礼拝	講師
4/12	3年イースター礼拝	林牧人（日本基督教団 西新井教会牧師）
5/18	1年ペンテコステ礼拝	中村吉基（本校聖書科教諭 代々木上原教会牧師）
5/17	2年ペンテコステ礼拝	箕口窓香（日本基督教団 三崎町教会牧師）
5/16	3年ペンテコステ礼拝	北川善也（学院牧師）
5/10	1年特別礼拝（旧母の日礼拝）	河原あゆみ（日本基督教団三崎町教会会員 明学大卒業生）
11/15	2年特別礼拝（キリスト教教育週間）	鈴木実講（日本聾話学校校長）
10/25	3年特別礼拝（キリスト教教育週間）	河原あゆみ（日本基督教団三崎町教会会員 明学大卒業生）
12/18	1、2年クリスマス礼拝	岸憲秀（千葉本町教会牧師）
12/2	3年クリスマス礼拝	篠田真紀子（日本基督教団浅草教会牧師）
12/18	3年卒業礼拝	水口洋（日本聾話学校理事長）
2/8	1年信教の自由を守る日特別礼拝	小塩海平（日本キリスト教会東京告白教会長老）
2/16	2年信教の自由を守る日特別礼拝	渡辺祐子（明治学院大学 教養教育センター長）

◎ 【キリスト教に関する学びの時の充実】

(a) 聖書講話

実施日	場所	お話	参加者
4月5日	礼拝ホール	鵜殿博喜学院長	教職員54名

(b) 明治学院にかかわる故宣教師・先達者の墓地清掃と墓前礼拝

実施日	場所	参加者
10月23日	青山墓地	生徒7名、教員6名

生徒たちは学院の礎を築いた宣教師の名前を確認しつつ丁寧に清掃をしていた。また、清掃後に墓前礼拝を行い、生徒と教職員が共に感謝の祈りを捧げた。

(c) 白金クリスマスツリー点灯式（共催）

実施日	場所	お話
11月17日	礼拝堂	徳永望校長

グリークラブが留学生と共にミュージックベルを演奏した。

(d) アドヴェント礼拝

実施日	場所	お話	参加者
12月14日	礼拝堂	Tirzah Digennaro (本校準宣教師)	約350名

準備スタッフとして生徒が20名近く集まって共に礼拝の準備をした。

(e) シェアリングメッセージミーティング

各学期1回、家庭科室で準宣教師を中心に教職員が聖書について語り合う場を持った。

(f) 祈祷

コロナ禍になる前、毎週1回実施していた有志参加の教職員祈祷会は実施できなかったが、教職員が集う会議については毎回祈りをもって始めた。

◎ 【生徒・保護者に働きかけるプログラムの充実】

(a) オルガン講座

学院オルガニストによるパイプオルガン講座を生徒18名（1年生4名、2年生6名、3年生8名）が受講した。受講生には礼拝時の前奏を担当する機会が与えられた。又、PTA教養福祉委員会主催「チャペルコンサート」で演奏を行った。

(b) 宿泊研修会

3月25日、26日に黎明館で実施する予定であったが、参加希望者が少なく中止となった。

(c) クリスマス献金の呼びかけ

保護者や生徒へ呼びかけ、40団体以上のキリスト教福祉団体に献金を贈った。

◎ 【外部団体との連携】

(a) キリスト教学校中高校長会に積極的に参加して、プロテスタント学校とのつながりと交流を深めた。

(b) キリスト教学校フェア幹事校としての責任を担う立場から、各校と連携して広報活動に努め、円滑に開催できた。

(c) 1年生に配布した「キリスト教の手引き」に教会の紹介ページを掲載し、礼拝への出席を奨励した。

(d) 各教会から郵送されてくる教会案内のパンフレットやポスターを校舎エントランスに掲示し、聖書の授業でも日曜礼拝の出席を奨励した。

② 教学改革と教育改善の推進 < 教学 >

◎ 【新カリキュラム】

新学習指導要領に準拠した新カリキュラムの授業を1、2年生で実施。観点別評価により、各科が生徒の学習成果を多面的に評価するとともに、探究型授業やグループ学習、プレゼンテーションの機会を多く設定して、暗記に偏らない知識習得を目指した。2023年度は特に以下の指導を推進した。

(a) 各教室電子黒板と各生徒が持つタブレットを積極的に活用し、デジタル教科書や動画、画像を用いた双方向の授業実践を多数行った。

(b) 『学習の手引き2023』（必修および選択科目の案内）を作成し、事前に教科内容を提示・説明するなど丁寧な指導を心掛けた。

(c) 数学の授業の充実を図るため、2年生の必修科目において習熟度別授業を実施した。国語科や英語科でも選択授業等で緩やかな習熟度別授業を実施した。

(d) 自由選択では韓国語講座、フランス語講座に加えて中国語の講座を開設した。なお、韓国

語に対する興味関心は高く、2023年度に引き続き2024年度でも複数クラスで授業を実施することとなった。

◎ 【授業の改善・充実】

- (a) 苦手教科がある生徒への補習を定期的に行った。また、深く学びたい生徒を対象にした講習も定期的を実施した。
- (b) 音楽・美術・書道などの芸術科目について、十分に学ぶ時間をとった。また、家庭科において被服実習、消費者教育など、社会に出てから役立つような授業にも重点を置き実施した。
- (c) 3年生の3学期に生徒のニーズに合わせて本校教諭による特別講座を開き、大学への準備の学習および教養的学習を行った。
- (d) 新1年生のガイダンス合宿はコロナ禍のため宿泊は取り止め、ガイダンス期間中に「キリスト教と明治学院」、「明治学院の建学の精神と歴史」などのガイダンスプログラムを実施した。
- (e) 2年生の「総合的な探究の時間」は、「教師と生徒がともに生き方を考えていく独自の体験・研修旅行」として、「田舎暮らし」「長崎」「沖縄」「京都」「韓国」「台湾」のコースに分かれて1年間の授業を行い、探究的な学習を深めた。研修旅行に関しては期間を縮めたり、行き先を近郊に変更したり縮小して行った。

◎ 【行事・課外活動の充実】

- (a) 行事は基本的にコロナ禍前の状態に戻して実施した。校外ホームルームでの調理を再開し、各クラスで企画した遠足を実施した。合唱コンクール、体育祭もコロナ禍前の形態で実施したが、オーリーブ祭（文化祭）についてはインフルエンザの感染拡大のために一般公開は行わず、生徒の家族のみ入場を許可して実施した。
- (b) 学習とクラブ活動（課外活動）のバランスをとって、豊かな高校生活を過ごせるよう指導した。各部の活動は合宿も含めてコロナ禍前の状態に戻すことができた。

<部活動等実績>

クラブ名	実 績
写真部	東京都高等学校写真連盟地区大会優秀賞（2名） 東京都高等学校文化祭中央大会入選（5作品） 関東地区高等学校写真展東京都代表
バドミントン部	新人戦Ⅰ部大会ダブルス（個人戦） 決勝トーナメント進出（東京東ブロックベスト16） 冬季東ブロック大会（団体戦）Ⅱ部大会優勝（Ⅰ部16校を除くⅡ部約100校で1位）
野球部	第68回全国高等学校軟式野球選手権大会東京大会優勝（初優勝） 第68回全国高等学校軟式野球選手権大会準決勝出場（ベスト4） 燃ゆる感動かごしま国体出場（第3位）
アメリカンフットボール部	令和5年度東京都アメリカンフットボール秋季大会東京都 第3位 第54回全国高等学校アメリカンフットボール選手権関東地区ベスト4 第23回関東高等学校アメリカンフットボール地区選抜対抗戦STICK BOWL 東京都選抜10名選出 優秀選手賞 DE（99番） 第13回関東地区関西地区アメリカンフットボール地区選抜対抗戦 NEW YEAR BOWL 東京都選抜に6名選出
書道同好会	第36回東京都高等学校文化連盟書道展 奨励賞 第39回高円宮杯日本武道館書写書道大展示覧会 毛筆の部 大会奨励賞 第27回公募日本習字展 毛筆、硬筆 千葉日報社賞 第48回ふれあい書道展 筆都大賞

③ 国際交流活動の推進 <教学>

◎ 【留学生の受け入れ・交流】

海外からの留学生2名を受入れ、国際交流ラウンジを拠点とした学習や活動を行うとともに、本校生徒との交流も積極的に進めた。

◎ 【海外研修の充実】

- (a) オーストラリア研修を5年ぶりに再開し、クイーンズランド州教育省の協力を得て現地校で

- の語学研修、ホームステイを実施した。(2年生、春休み期間中の9日間)
- (b) 国際交流ラウンジ運営委員会を中心に留学経験者の報告会を2月に実施した。
- (c) JET (The Japan Exchange and Teaching) Programmeを利用した外国語指導助手 (ALT) を引き続き任用し、外国語教育の充実と異文化交流の促進を図った。

◎ 【高大連携の充実】

大学の国際センターの協力のもと、卒業生による留学ガイダンスを実施した。

④ ボランティア活動の充実 < 教学 >

◎ 【明治学院大学の諸活動との連携の強化と充実】

大学ボランティアセンターの主催で、高校生が参加可能なプログラムへの参加を積極的に推奨した。

◎ 【外部諸団体との連携】

- (a) タイ・パヤオプロジェクトのメンバーによる物販を行った。
- (b) 横浜寿町の炊き出しにハイY (ハイスクールYMCA) 部の生徒が20年近く参加しているが、2023年度も継続して参加した。

⑤ キャリアサポート体制の充実 < 教学 >

◎ 【一貫教育の推進】

高校が目指す教育として、スクール・ミッション『明治学院高等学校は、「キリスト教に基づく人格教育」という建学の精神に従い、自らが隣人と共に生きるための教養と学力を培い、自由と真理を追い求め、世界平和の礎となる人を育成します。』を決定した。

◎ 【進路指導の充実】

- (a) 「一人ひとりを大切にする進路指導」により「生徒の様々な夢をサポート」することを基本方針とし、具体的な指導を進めた。
- (b) 学年ごとの指導

	指導目標	指導内容	具体的活動	学年通信
1年生	基礎学力を培い視野を広げる	基礎学力の養成に努めるとともに、様々な価値観・生き方を知ることによって将来の可能性を広げる	進路ガイダンス、進路適性検査(学びみらいPASS)、全国模擬テスト、明治学院大学を知る会など	ほっぷ
2年生	個性を確立し、進む道を見つける	自らが将来何をしたいのか、そのための実現方法を考え行動する	進路適性検査(学びみらいPASS)、全国模擬テストなど 大学教員による出張講義は実施できなかった	すてっぷ
3年生	進路の実現に向けて飛躍する	学力の確立に努める	明治学院大学学部学科説明会、面接指導、全国模擬テスト、推薦試験説明会、大学入学共通テスト説明会など	じゃんぷ

- (c) 全校の生徒・保護者に向けて『2023年度 進路の手引き』を発行した。
- (d) 大学入試のための補習・講習を実施するとともに、一人ひとりの進路に合わせた指導を行った。
- (e) マレーシアの大学との指定校推薦協定を継続した。また、海外大学(アメリカ)への進学者を得た。

◎ 【明治学院大学との協働】

- (a) 2023年度は明治学院大学系列校特別推薦制度により119名、高校3年生全在籍者の40.0%が明治学院大学に進学した。明治学院大学への近年の進学率は、2019年度が43.1%、2020年度が42.8%、2021年度が39.7%、2022年度は42.0%となっている。
- (b) 明治学院大学の教員の協力を得て「大学入門講座」を行った。例年よりも多い24名の受講者を得ることができ、1学期は2週間(4時間)を一つの単位として授業を展開した。
第1回 4月25日 佐々木百合教授(経済学部経済学科)

- 第2回 5月9日 新保美香教授（社会学部社会福祉学科）
- 第3回 5月30日 齊藤哲也教授（文学部フランス文学科）
- 第4回 6月13日 半澤朝彦教授（国際学部国際学科）
- 第5回 6月27日 櫻井成一郎教授（法学部消費情報環境法学科）

2学期は新書を読んで要約と感想を書く課題に取り組み、課題図書を題材としたレジュメ作成やディスカッション・クエスチョンの準備に取り組んで議論の進行についての学びを深めた。

- (c) 明治学院大学入学前教育として行われる事前課題の実施、ならびに明治学院大学主催「J.C.バラ・プログラム」に大学・東村山高校と協力して取り組んだ。
- (d) 明治学院大学から教育実習生2名を受け入れ教育実習を指導した（全教育実習生10名）。
- (e) 高大接続の一環として明治学院大学入学を志す希望者を対象にしたTOEFL講座に生徒3名が参加した。ラーニングセンター内の多目的室で明治学院東村山高校からの参加者とともに英語力向上を目指して学習に励んだ。

⑥ 生徒へのサポート体制および学業支援（奨学金）の強化 <教学>

◎【奨学金の充実】

学内奨学金について、修学上経済的援助が必要と認められる23件（世帯）について適正に支給した。

◎【心身両面の支援】

- (a) 改正障害者差別解消法に則って、授業や定期試験などで合理的配慮を必要とする生徒に対して、別室での個別対応など、適正に支援を行った。
- (b) 生徒を取り巻く教育環境、現代の生徒の心理・様子等についてカウンセリング委員会を開き、情報交換して教職員に発信した。また管理職と相談員、養護教諭とのカンファレンスも定期的に開催した。

⑦ その他の計画 <教学>

◎【防災対策】

- (a) 新校舎において、より安全な避難ルートを設定するために様々な避難形態や状況を設定して避難訓練を2回実施した。
- (b) 東京私立中学高等学校協会と連携し、災害時の情報伝達訓練を実施した。
- (c) 生徒が3日間生活できることを想定し、災害対策用の備品（食糧、水、マット、災害用ブランケット、簡易トイレ等）を整備して緊急時に備えた。

○【健康管理】

- (a) 新型コロナの感染者は減少傾向だが、インフルエンザB型の感染拡大が複数回起こった。クラス内感染、学年内感染の拡大が見受けられた時には学級閉鎖や学年閉鎖を実施した。
- (b) 高輪消防署と連携して教職員向けのAED（自動体外式除細動器）の講習会を実施した。

⑧ 施設および設備の充実 <施設>

◎【校舎改築事業】

- (a) グラウンド復旧工事が2023年5月に終了し、一連の校舎改築の工程を無事に終えることができた。
- (b) 温水プールの蒸気配管について、老朽化による蒸気漏れが発生したことから更新工事を実施した。
- (c) 本館・体育館の長期的な設備維持計画について、今後必要となる補修工事等の検討を進めた。

⑨ スクールコンプライアンス <総務・人事>

○【コンプライアンス体制】

- (a) いじめ防止について、学年会を中心に日常的に情報を集めた。また、いじめ対策委員会を適宜開催し、関係部署との情報共有を行った。2023年度はSNSへの書き込みをめぐるトラブルで生徒を指導した。
- (b) 合理的配慮を実施するに当たり他校のカウンセラーや養護教諭と交流するとともに、学習会に養護教諭と管理職が積極的に参加した。
- (c) 改正労働施策総合推進法（パワハラ防止法）への対応として、規程整備に向けた教職員の啓蒙と準備を進めた。

⑩ 財政基盤の強化 <財務>

○ 【学納金の見直し】

新校舎建築期間中は据え置いていた学納金（授業料・施設費・入学金等）について、2023年度から値上げ（年次進行）を実施した。

〔生徒募集〕

⑪ 募集計画と入試結果

(a) 広報活動

- 1) ホームページは広報の機能を重視し、カリキュラムや総合探究の紹介、礼拝でのお話、生徒会・クラブ活動、施設・環境、進路指導、生徒募集など多様な情報を掲載した。
- 2) 学校説明会はWeb申込みでの学校見学会として実施した。新しい校舎を見学できる機会ということもあって多数の受験生と保護者の申込みを得た。（8月、10月、11月、12月の計4回）。
- 3) 外部の説明会については、キリスト教学校フェア、私学フェア2回、学習塾全国連合協議会の説明会に参加し、全て対面で実施できた。
- 4) 学校説明会（校舎見学会）参加者組数

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1,184組	2,042組	2,675組	3,161組

(b) 入試広報部会を中心とした取り組みの充実

- 1) 2019年度から導入したWeb出願システムを学校見学会などの予約受付などでも活用した。更に今年度も合格発表をWeb上で行った。
- 2) コロナ禍前の入試形態に戻し、推薦入試で2回の面接を再開できた。また、校舎のバリアフリー化により合理的配慮を必要とする受験生にも対応した。

(c) 推薦試験合格者への働きかけ

- 1) 推薦合格者対象の基礎力確認テスト（英数国）を昨年度より再開し、苦手科目がある推薦入試合格者には入学前に補習を行った。

(d) 入試結果

年度	2022年度				2023年度				2024年度			
	推薦	一般①	一般②	計	推薦	一般①	一般②	計	推薦	一般①	一般②	計
募集数	120	150	60	330	120	150	60	330	120	150	60	330
応募者	307	604	480	1,391	393	704	612	1,709	334	670	616	1,620
受験者	141	575	366	1,082	147	673	472	1,292	149	628	484	1,261
合格者	141	192	82	415	147	180	78	405	149	189	75	413
入学者	140	122	65	327	147	117	50	314	149	127	39	315

〔その他の特記事項〕

⑫ 『保護者の手引き』の作成

生徒の学習や生活について、保護者の理解と協力を得るために、2023年度も『保護者の手引き』を作成した。

⑬ 校務体制の整備

2011年度から10年間をかけて実施した部会の新設と事務長の設置を含めた校務組織の改編はひと段落し、6部会制が定着した。管理職と部会主任で構成される校務運営委員会は半数以上を女性が占めており、多様な視点で校務運営を行うことができるようになった。一方で、副校長が入試広報部会の主任を兼ねることによる加重負担など、今後も検討すべき課題が指摘されている。

〔大学合格者数の実績〕

⑭ 2020～2023年度大学合格者数

主な私立大学合格校	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
明治学院大学 [内 一般受験合格者数]	144 [3]	130 [9]	138 [11]	133 [12]
早稲田大学	11	4	9	11
慶應義塾大学	12	11	8	3

主な私立大学合格校	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
上智大学	8	12	11	14
東京理科大学	9	6	5	14
国際基督教大学	1	2	2	1
明治大学	23	18	33	31
青山学院大学	25	37	30	22
立教大学	20	24	32	36
中央大学	24	24	21	21
法政大学	20	31	43	20
学習院大学	8	9	8	8
成蹊大学	8	9	12	3
成城大学	11	14	9	7
日本大学	18	14	32	15
東洋大学	19	10	13	17
駒澤大学	7	10	5	2
専修大学	3	1	7	4
國學院大学	10	5	5	3
武蔵大学	2	6	2	4
津田塾大学	3	3	1	3
東京女子大学	9	14	4	6
日本女子大学	2	9	5	3
芝浦工業大学	4	2	2	3
東京都市大学	6	2	2	4
東京農業大学	9	5	5	6
同志社大学	7	1	4	4
立命館大学	4	4	2	2
関西学院大学	4	5	3	3
北里大学	2	2	2	1
順天堂大学	4	1	4	1
杏林大学	4	1	4	1
東京薬科大学	3	1	3	1
昭和大学	2	1		1
多摩美術大学	4	2		2

国公立大学合格校	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
北海道大学		1	1	
東京都立大学			1	
東京学芸大学				1
筑波大学				1
岩手大学		1		1
九州大学		1		
東京海洋大学	1	1		
金沢美術工芸大学	2			1
東京外国語大学	1			

国公立大学合格校	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
横浜国立大学	1			
高崎経済大学	1			
埼玉大学	1			
千葉県立保健医療大学	1			
弘前大学	1			
徳島大学				1
山梨大学				1

海外大学合格校	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
Michigan State University (USA)				1
The University of British Columbia (Canada)				1

4. 明治学院中学校・東村山高等学校

(1) 事業計画

〔教育・研究における重点分野〕

- ① 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>
- ② 教学改革と教育改善の推進 <教学>
- ③ グローバル教育の充実 <教学>
- ④ ボランティア活動の充実 <教学>
- ⑤ キャリアサポート体制の充実 <教学>
- ⑥ その他の計画 <教学>
- ⑦ 施設および設備の充実 <施設>
- ⑧ 人事体制の強化・整備 <人事>

〔生徒の募集計画〕

- ⑨ 募集計画と入試結果

〔その他の特記事項〕

- ⑩ 専任教員の採用
- ⑪ Webページを活用した広報活動

〔大学合格者数の実績〕

- ⑫ 大学合格者数（2020年度～2023年度）

(2) 事業計画の進捗状況

◎は中期計画掲載案件、○は短期案件を指す。

〔教育・研究における重点分野〕

① 明治学院のキリスト教教育の展開 <教学>

本校では学院の建学の精神「キリスト教に基づく人格教育」に従い、「贖罪と愛による教育」を教育理念とし、「道徳人・実力人・世界人の育成」を教育目標に、様々な活動を実践しキリスト教教育の充実に努めることとしている。

◎ 【礼拝の充実】

- (a) 新型コロナウイルス感染予防の観点から、中高共に放送礼拝を守ってきたが、2023年度に入り、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことに伴い、高校については、部分的な対面礼拝（2学年がチャペルで対面礼拝、残る1学年が教室もしくは講堂でのライブ中継礼拝）に移行した。中学では対面礼拝移行への課題も多く、放送礼拝を継続して守った。
- (b) 信教の自由を守る日講演会も対面に戻り、高校は2月5日に、中学は2月21日に行った。
- (c) 特別礼拝

日付	礼 拝	中 学	高 校
4/15	イースター礼拝	和田道雄（理事）	山崎雅男（理事長）
4/22	家族礼拝	北川善也（学院牧師）	
5/27	※ペンテコステ礼拝	松木進（教団花小金井教会牧師）	田村毅朗（教団東村山教会牧師）
10/23	※宗教改革記念礼拝	西脇正之（教団国分寺教会牧師）	八木浩史（教団調布教会牧師）
11/1	創立記念礼拝	山崎雅男（理事長）	鵜殿博喜（学院長）
11/25	永眠者記念礼拝	大西哲也（本校校長）	
12/4	クリスマス点灯式	和賀井聡（本校副校長）	
12/20	※クリスマス礼拝	小堀昇（改革派花小金井教会牧師）	小海基（教団荻窪教会）
3/4	高3卒業礼拝		北川善也（学院牧師）

注）表中※印の礼拝では献金を行い、総額約113万円を学校周辺の社会福祉施設、神学校、キリスト教諸団体他、合わせて24箇所に送金した。今年度は能登半島地震救援募金のため、日本基督教団社会委員会を送金先として新たに追加した。

(d) キリスト教研修会

- | | | | |
|-----|------|-----------------|------------|
| 第1回 | 5/10 | 「聖書協会共同訳聖書について」 | 担当：曾武川教諭 |
| 第2回 | 3/6 | 「カルトについて」 | 担当：佐藤（倫）教諭 |

◎ 【宿泊行事・修養会の実施】

学年	場 所	実施日	主 題
中1	山梨 富士吉田	6/1-6/2	「出会い」をテーマに、自分、友だち、神様、自然、キリスト教について考える。
中2	山梨 清里	5/31-6/2	「神様がつくられた自然と人間」をテーマに、自然・自分・他者と向き合うことを目的とする。
中3	広島・京都・奈良	9/12-9/15	平和について考えるとともに、日本の伝統文化について学ぶ。
高1	白金・横浜・静岡 御殿場	5/31-6/2	聖書とヘボン博士の生涯を学び、里親支援をしているフィリピンの子供との交流活動を通じて「隣人愛」を学ぶ。
高2	長崎	5/30-6/2	日本のキリスト教の歴史と原爆から平和について学ぶ。
高3	箱根	5/31-6/1 6/1-6/2	「希望」をテーマに、「わたしの好きな聖句」額作成、20キロの東海道歩行、クラスレクリエーションを行い、神様と向き合い、目標を達成する喜びを感じ、友人と交流する機会とする。

② 教学改革と教育改善の推進 <教学>

◎ 【授業および学習プログラムの充実】

(a) 授業の充実

中学（2021年度）、および高校（2022年度より年次進行）で導入した新カリキュラムに基づく授業を引き続き展開した。また、2022年度より観点別評価が高校にも年次進行で導入され、各教科で3つの観点（知識技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度）に応じてきめ細かく授業や試験を実施することができた。

(b) 中学校

- 1) 英語教材として「プログレス21」を採用している。3学期に実施した校内スピーチコンテストにおいて生徒が自信を持ってスピーチすることができた。英語検定の上位級への合格者数は、準2級54名、2級9名となっている。この教授法で効果をあげるためには家庭学習が大切であり、その指導を厳しく行うことが家庭での学習習慣作りとして他教科の学習にも波及効果が認められる。英語力の客観的な評価を得るためにGTEC（Global Test of English Communication）を全学年で実施している。
- 2) 数学検定は、中1終了時で5級、中2終了時で4級が目標級となっており、その後中3で3級、高1で準2級と続いていく。数学検定の受検は任意としているが、本校を会場として実施するなど受験を奨励しており、数学の学力向上の励みとなっている。
- 3) 理科と社会では、野外実地調査により生徒の興味関心を引き出すことに努めるため、2023年度は下記の行事を実施した。

学年	場 所	実施日	主な調査目的
中3	理科校外授業 (生田緑地)	11/10	地層・断層・浸食等の観察から地史を学ぶ。
中2	社会校外授業 (東京歴史散歩)	9/14	各人の興味関心を東京の史跡に発見し、かべ新聞で報告する。
中2	理科校外授業 (多摩動物公園)	5/2	日ごろ接することの少ない動物を身近に観察し、動物の食性の違いと、体のつくりの違いについて理解を深める。

(c) 東村山高校

- 1) 数学や英語では習熟度別クラス、少人数クラスの効果的な授業を行うことができた。
- 2) 高2・高3では進路指導の外部関連業者も活用して、学部学科ガイダンスや進路ガイダンスを綿密に行い、明確な職業観を持って自らの進路を開拓できるように促した。
- 3) 「プログレス21」は中学に引き続いて全学年で使用している。英語は「英検2級に合格して卒業」が目標である。さらに上位級の準1級24名の合格者を含め、2級以上には239名が合格している。

(d) 学習プログラム

- 1) 2023年度高3生は現行の「学習プログラム」適用の12期生であるが、本プログラムに基づいた高3のコース分けは、系列校推薦コースが3クラス、理系受験コースが1クラス、文系受験コースが2クラス、高2のコース分けは、理系受験が1クラス、文系受験が5クラスとなった。

- 2) 中学において2023年度は新しいカリキュラムの3年目であり、特に学びに向かう力と人間性等の涵養に主眼を置いた教育活動を行った。
- (e) 外部検定試験の活用
客観的英語教育評価を得るために、中1から高3までを対象に、2023年度もGTECを実施した。
- (f) 補習講習
学習の遅れた生徒には補習を、難度の高い学習を希望する生徒向けには講習を各々設定・実施し、生徒のニーズに応じている。長期休暇中には多くの講習を実施し、生徒が学習に励むことができた。

◎【ICT教育の充実】

- (a) 中高全学年の生徒が一人一台タブレットを利用するようになって2年目となった2023年度、これまで整備してきたICT環境を一層活用するためにICT支援員を置いた。ICT支援員は生徒タブレットの故障と修理に対応しつつ、教職員からの技術的な質問や相談にも応じて、タブレットを活用した授業の支援を行った。
- (b) クラウド型校務システムBLENDの活用が進み、学籍・成績管理以外にも保護者・生徒へ、また教職員間の連絡などに利用された。またデジタル採点システムを導入したことにより、多くの教員が定期試験や授業内テストの採点を効率化することができた。一部の教科では入学試験にデジタル採点を利用して入試業務の負担を軽減した。授業ではGoogle Workspaceの各アプリケーションやロイロノートが効果的に使用され、生徒の学びのためにICT環境が一層必要になってきた。
- (c) 教員用ノートPCも更新して、非常勤教員も含めてノートPC一人一台体制が実現した。新しいノートPCには長時間バッテリーを標準装備し、電源コードなしに連続した授業や長時間の会議に対応できるようになった。
- (d) 2024年度は高校新入生に従来のiPadに加え、タブレットPCのSurface Go4を使用させることが決まり、キーボードを装着しノートPCに近い操作性を体感しながら学びを深めさせる体制を整えた。

○【カリキュラム・マネジメントの取組】

新学習指導要領にも記載されている「カリキュラム・マネジメント」の手法を用いて、組織的・計画的に教科横断的な力を育成する教育活動の質を高め、学校の特徴を創り上げていく活動を導入した。

2023年度は、教科横断的な指針として、生徒の「発表・表現活動」にフォーカスし、「1教科に留まらない力」の育成のために各部署、各教科、各行事等で実施した数々の活動を集約の上、部署・教科に関わらず横断的にその内容を共有した。また、学校説明会等で本校の教育活動の特色の一部として紹介した。

○【教職員研修】

- (a) 新年度研修会として4月5日に専任教職員向けで、早稲田大学大学院教職研究科教授・高橋あつ子氏をお迎えし、「問題行動に隠れた発達障害」と題して講演をしていただいた。また、2022年度より開始した新しい観点別学習状況の評価について、教科ごとに振り返りを行った。4月6日には専任・常勤・非常勤合同で教科会・学年会の会議を持ち、全講師と専任新任者向けにガイダンスを実施した。
- (b) 専任新任者には毎週水曜1時限目に、副校長による研修を行い、9月迄実施した。
- (c) 11月8日放課後に専任教職員向けの11月研修会を実施し、名川・岡村法律事務所・渡邊迅弁護士をお迎えし、「教職員が知っておくべき法的知識をアップデート」と題して、2024年4月より義務化される、障害者差別解消法における「合理的配慮」を中心に講演を実施していただいた。
- (d) その他、各教科・各分掌・各人において学内はもとより外部団体主催の研修会に参加した。

③ グローバル教育の充実 < 教学 >

◎【国際交流プログラムの実施】

- (a) 2023年度はコロナ禍以降4年ぶりに夏期ホームステイを実施することができた。高校1年生6名、高校2年生5名、高校3年生1名の合計12名が7月14日から8月22日まで、ホストファミリー宅（アイオワ州、ネブラスカ州、ミシガン州、テネシー州、カリフォルニア州）に滞在した。
- (b) ウィンターイングリッシュプログラムは2022年度より再開したが、Northwestern Collegeの都合により実施不可と連絡があり、今年度はカナダのバンクーバーにあるLCI Language Schoolにて1月12日より3週間、午前中は英会話の授業、午後は本校生徒のみのアクティビティー

(ブリティッシュコロンビア大学訪問や学生へのインタビュー、SDGs講話など)を行った。

◎【留学の奨励と留学生の受け入れ推進】

- (a) 本校独自の留学制度は休止中だが、生徒・保護者より相談があれば外部団体を紹介し、留学を勧めている。2023年度は高1生徒が進級予約留学制度を利用して、3学期より1年間の予定でカナダに留学した。
- (b) 新たな海外研修プログラムとして、2024年度より「オーストラリア・スタディツアー」、「イギリス・スタディツアー」および「ニュージーランド・ターム留学」の3つのプログラムを開始することとし、生徒・保護者に対して周知した。
- (c) 留学生はベルギー・ブラジル・アメリカから各1名、計3名を受け入れた。

④ ボランティア活動の充実 < 教学 >

◎【自主的なボランティア活動の充実】

- (a) 高校ではフィリピンとの間で26年間CFJ (Child Fund Japan、旧キリスト教国際精神里親運動)のプログラムに参加している。生徒一人毎月100円の支援金により、クラスで一人のチャイルドを支えた。
- (b) 夏休みに実施していたコイン募金を「夏期献金」と名称を変え、同献金を元にJOCS (日本キリスト教海外医療協力会)への送金、およびバンコクYMCAを通してエイズ孤児や人身売買・労働搾取の被害から守られている子供たちの施設「パヤオセンター」のために資金援助した。
- (c) クラブ活動の一環として、中学ハンドベルクワイアが毎年行っている教会における演奏奉仕を実施した。
- (d) 東日本大震災被災者救援のための、有志高校生による被災地でのボランティア活動に今年度は夏休み中に6名の生徒が参加した。

⑤ キャリアサポート体制の充実 < 教学 >

◎【キャリア教育の推進】

生徒が自分の「使命(ベールフ)」について考え発見できる機会を提供するため、明治学院教育ビジョンにおけるキャリア支援会議チームのアクションプランに沿い多様な講師を招き、高校でキャリア講演会を実施した。

時 期	対象学年	講 演 者
6/7	高3	金ミンジェ氏 (東京神学大学大学院生)
11/13	高1	大谷貴子氏 (全国骨髄バンク推進連絡協議会副会長)
11/20	高2	安食弘幸氏 (峰町キリスト教会牧師)
11/29	高1	関根圭祐氏 (FIFA交渉Agency・47期卒業生)

◎【進路指導の充実】

- (a) 現行の「学習プログラム」に基づく、進路指導の定例会議を毎週行い、各学年の指導状況、取り組みについて検討した。
- (b) 高校生に「進路の手引き」を改訂、配付した。大学受験指導のため、外部専門業者の分析データを活用して、高2・高3教員向けの出願指導研修および数回に亘って模試結果の分析報告を行った。

○【明治学院大学の理系学部新設への対応】

2024年4月より系列校である明治学院大学に情報数理学部(理系学部)が新設されることとなった。本校では、同学部に対する2023年度高校3年生の推薦進学に備え、明治学院大学と連携を図りながら必要な理系履修科目の新設等の対応をした。結果として本校からは4名の生徒が同学部に進学した。

◎【中高大の連携推進】

- (a) 明治学院大学系列校特別推薦制度の結果
2023年度は明治学院大学系列校特別推薦制度により132名(新設の情報数理学部への進学者4名を含む)、高校3年全在籍者の52.4%が明治学院大学に進学した。明治学院大学への近年の進学率は下表の通りで、系列校進学への人気が続いている。

年 度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
明治学院大学進学率	40.2%	31.3%	43.1%	41.5%	47.5%	50.2%	50.5%	52.4%

- (b) 明治学院大学からの教育実習生の受け入れ
本校が受け入れた教育実習生17名のうち、明治学院大学からの教育実習生は心理学部2名、文学部2名をはじめとする6学部から計8名であった。
- (c) 接続教育の充実
- 1) 推薦進学コースでは「アカデミックリテラシー」の授業による小論文・面接指導を行った。また、2019年度より、この授業内で実施される明治学院大学教員による特別講義が「教養原論」として明治学院大学入学後に単位認定されることになった。2023年度は推薦進学コースにて111名が大学の単位を取得した。
 - 2) 明治学院大学各学部の入学前教育が行われ、入学までの4カ月間、高等教育を受ける準備の時とすることができている。
 - 3) 推薦進学予定の生徒に対して、6月に「明治学院大学学部学科説明会」、2月には「J.C.バラ・プログラム」を設けて参加を促している。とりわけ、後者は入学前に明治学院大学での生活の一端を体感できる貴重な機会となっており、教職員にとっても、高大接続、一貫教育を推進する上で有意義な機会となっている。
 - 4) 「明治学院一貫教育宣言」により、一貫教育の中身を充実していくことを確認している。その具体化のための教育ビジョンプロジェクトチームに参加し、前述のキャリア支援プロジェクトチームおよび後述の国際交流（留学）ワーキングチームを含む明治学院教育ビジョンの各チームのアクションプランに基づくプログラムを実施した。
 - 5) 明治学院大学国際学部と連携し、希望する高校生を対象としたキャンパスビジットを7月中旬に実施した。
 - 6) 明治学院教育ビジョン国際交流（留学）ワーキングチームのアクションプランに基づき、夏休み期間中に高大接続の一環として開講されるTOEFL講座に高校3年生4名が参加した。

⑥ その他の計画 < 教学 >

◎ 【学校評価】

- (a) 在校生卒業時アンケートの実施
高3生を対象とした在校生アンケートを実施し、今後の改善点を確認した。
- (b) 地域との交流
 - 1) 登校時に通学路で実施した登校指導の時間が、近隣住民との直接対話の機会としても機能した。
 - 2) 生徒の通学に際し、近隣住民からの苦情があり、生徒へ通学時の態度について再確認すると共に、教員が通学路で登校指導をすることにより、生徒の登校状況の改善がみられた。

○ 【危機管理】

- (a) 火災・地震などを想定した避難訓練を実施した（6月）。東京私立中学高等学校協会第11支部と連携し、災害時の伝達訓練を実施した（9月）。
- (b) 感染症の再拡大や災害等に備えて、不織布マスク、手指消毒薬（アルボナース等）を備蓄している。
- (c) 全校生徒分の災害時の非常食（3日分）の備蓄をしている。
- (d) 教職員向けに、不審者の侵入を想定した防犯訓練を実施した（3月）

○ 【スクールコンプライアンス】

- (a) いじめ防止対策推進法に基づく対応
「いじめ防止対策基本方針」に基づき、いじめの早期発見のための「いじめ対策委員会」の定例化、学校ポスト、通報のためのスクールサインなど諸方策を継続して実施した。
- (b) ハラスメント対策
改正労働施策総合推進法（通称、パワハラ防止法）への対応として、本校内に設置された「ハラスメント委員会」にて、ハラスメント防止に向けた対応として校内研修を実施した。
- (c) 特別支援委員会の運用
定例化した「特別支援委員会」を運営し、特別な配慮や支援が必要な生徒について情報交換や支援の内容の検討を行った。
- (d) 改正労働基準法への対応
2022年度より導入した、本校の教員に対する「1年単位の変形労働時間制」の運用を継続した。

⑦ 施設および設備の充実 <施設>

◎【設備の維持管理計画】

2023年度の大型工事として、高校棟西側全階のトイレ改修工事、および受変電設備の更新工事を実施した。

◎【中学棟・講堂棟・チャペルの整備計画】

中学棟・講堂棟の建て替えに向けて、中期的な視野から検討課題の抽出および他校事例（校舎建築実施先）の研究等を目的とした教職員10名からなる「第一次検討部会」を立ち上げ、活動を開始した。

⑧ 人事体制の強化・整備 <人事>

◎【就労環境の整備】

教職員の働き方改革対策として、ICT関連業務のサポートを目的として2023年度よりICT支援員を試験的に導入した。ICT支援員については導入の効果が認められたので、2024年度も継続導入する。

また、2022年度より導入したクラウド型校務支援システム（BLEND）については、ワークフロー機能を拡充し、従来、紙で行っていた申請の一部を同システム上のワークフローに移行し、ペーパーレス化を実現した。

〔生徒の募集計画〕

⑨ 募集計画と入試結果

○【募集対策】

(a) 広報活動

行事・イベント名	中学受験向け（小学生対象）	高校受験向け（中学生対象）
学校説明会（来校型）	7日／7回実施 参加：1,300組	5日／6回実施 参加：541組
オープン・キャンパス	7/17（祝）9：00～ 参加：336組	7/17（祝）13：00～ 参加：450組
中学クラブ体験会	11/25（金）14：00～ 参加：77名	
高校受験個別相談会		8月中に2日間実施 35組が参加
中学校・学習塾訪問		中学校： 延べ155校 学習塾： 延べ205塾
塾対象学校説明会	2回実施 延べ131塾・138名が参加	
合同相談会	33回に参加 延べ123名の教職員を動員	

(b) 入試の状況分析

中学入試では大学系列校人気の鎮静化、少子化の影響が懸念されている中で、例年通りの応募者数1,000名程度を確保することができた。

高校入試においては、2023年度入試より撤廃された、東京都立高校の男女別定員枠の影響が不透明な下、結果としては推薦入試・一般入試共に女子生徒の応募者数が減少した。

応募者数	推薦入試			一般入試		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計
2022年度	36	52	88	81	84	165
2023年度	36	31	67	92	52	144

とりわけ、高校一般入試における応募者数の減少が継続しているため、安定した応募者数の確保が引き続き課題である。

○ 【2024年度生募集結果】

(a) 中学校

年度 日 程	2022年度				2023年度				2024年度			
	2/1	2/2	2/4	計	2/1	2/2	2/4	計	2/1	2/2	2/4	計
定 員	60	60	20	140	60	60	20	140	60	60	20	140
応 募 者	468	354	283	1,105	447	352	316	1,115	428	344	292	1,064
受 験 者	456	233	132	821	429	245	163	837	404	232	149	785
合 格 者	166	88	33	287	161	80	50	291	152	82	50	50
入 学 者	60	58	26	144	56	49	39	144	64	51	29	144

(b) 東村山高校

年度 入 試	2022年度		2023年度		2024年度	
	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般
定 員	50	70	50	70	50	70
応 募 者	89	202	88	165	67	144
受 験 者	73	178	69	151	62	131
合 格 者	73	96	69	95	62	103
新入学者	73	54	69	62	62	60
移 行 生	132		131		135	
総入学者	259		262		257	

⑩ その他の特記事項

(a) 専任教員の採用

採用計画に基づき、2023年度は3名（国語科、体育科、美術科）の教員が入職した。2024年度も計画通り4名（国語科、理科、音楽科、体育科）が入職予定となっている。

(b) Webサイトを活用した広報活動

学校行事報告、イベント告知、クラブ活動報告など、107件の新着情報（NEWS & TOPICS）と、受験生向けの入試情報を随時Webサイトに掲載し、外部への情報発信を行った。

⑪ 大学合格者数（2020年度～2023年度）

現役浪人合計。短大・専門学校合格者は除く。

[] 内は一般受験して明治学院大学に合格した数。

（2024年3月29日現在）

主な私立大学合格校	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
明治学院大学 [一般受験合格者数]	121 [0]	126 [3]	135 [3]	139 [7]
早稲田大学	6	4	5	4
慶應義塾大学		2	3	2
上智大学	3	1	2	3
東京理科大学	4	3	3	3
国際基督教大学	2	1	1	3
明治大学	7	6	2	8
青山学院大学	5	7	8	10
立教大学	14	8	9	22
中央大学	14	15	16	16
法政大学	18	22	8	9
学習院大学	11	13	10	8
日本大学	9	20	6	8
東洋大学	13	14	11	16

主な私立大学合格校	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
成蹊大学	7	9	6	8
成城大学	4	7	1	5
武蔵大学	5	10	2	
津田塾大学	1	1		1
東京女子大学	3		3	2
日本女子大学	2	1		1
芝浦工業大学	4	1		3
東京農業大学	10	5		3
東京電機大学	3	1	3	2
東京薬科大学	8	1	7	3
川崎医科大学			1	
埼玉医科大学	2			
多摩美術大学	2	1	2	2
武蔵野美術大学	5	8	4	5

国公立大学合格校	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
香川大学				1
埼玉県立大学				1
北海道教育大学				1
一橋大学			1	
琉球大学			1	
横浜国立大学		1		
筑波大学		1		
千葉大学		1		
東京学芸大学		1		
島根大学		1		
東京都立大学	1			
北海道大学	1			
公立諏訪東京理科大学	1			

第3章 2023年度財務の概要と経年比較（2019年度～2023年度）

1. 財産目録

資産総額	123,208	百万円
1 基本財産	52,803	百万円
2 運用財産	70,405	百万円
負債総額	10,596	百万円
純資産	112,612	百万円

(単位：百万円)

区 分	2023年度末	
資産額		
1 基本財産		
土地	347,072㎡	17,069
建 物	148,930㎡	19,419
建物附属設備	1,171件	6,712
構 築 物	369件	1,436
図 書	1,238,631冊	5,771
教具・校具・備品	44,032点	1,521
そ の 他		871
2 運用財産		
現金預金		6,600
そ の 他		63,804
資産総額		123,208
負債額		
1 固定負債		5,761
長期借入金		1,001
退職給与引当金		4,752
長期未払金		8
2 流動負債		4,834
短期借入金		61
そ の 他		4,773
負債総額		10,596
純資産		112,612

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

2. 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
資産の部					
固定資産	108,642	110,508	111,789	114,094	115,903
有形固定資産	49,199	49,771	50,266	51,913	52,488
土地	17,069	17,069	17,069	17,069	17,069
建物（含付属設備）	23,435	22,964	22,944	26,173	26,132
構築物	1,446	1,326	1,209	1,159	1,436
教育研究用機器備品	1,116	1,302	1,229	1,547	1,451
管理用機器備品	76	69	86	77	69
図書	5,508	5,585	5,664	5,712	5,771
その他	547	1,452	2,063	172	556
特定資産	59,074	60,416	61,263	61,956	63,024
第2号基本金引当特定資産	14,995	14,594	14,321	13,818	13,527
第3号基本金引当特定資産	10,468	10,768	11,268	11,768	12,268
退職給与引当特定資産	4,890	4,844	4,782	4,749	4,752
国際交流引当特定資産	2	2	2	2	2
チャペルオルガン引当特定資産	0	-	-	-	-
減価償却引当特定資産	25,332	26,847	27,591	28,215	29,054
山岳事故緊急対策積立引当特定資産	11	11	11	11	11
法人基金引当特定資産	3,081	3,080	3,021	3,019	3,015
日本近代音楽館引当特定資産	193	184	185	185	185
その他の引当特定資産	97	81	77	184	205
その他の固定資産	368	320	259	224	391
長期貸付金	42	36	24	17	9
その他	325	283	235	207	381
流動資産	6,266	6,110	7,144	6,938	7,304
現金預金	5,771	4,854	6,370	6,382	6,600
その他	494	1,255	774	555	704
資産の部合計	114,908	116,618	118,934	121,033	123,208
負債の部					
固定負債	5,246	5,203	5,124	5,820	5,761
長期借入金	352	351	331	1,061	1,001
退職給与引当金	4,890	4,844	4,782	4,749	4,752
長期未払金	3	7	11	10	8
流動負債	4,181	4,316	4,580	4,554	4,834
短期借入金	90	1	20	20	61
前受金	2,506	2,684	2,741	2,703	2,984
その他	1,584	1,631	1,818	1,830	1,789
負債の部合計	9,428	9,520	9,705	10,375	10,596
純資産の部					
基本金	110,783	112,410	113,995	115,834	117,441
第1号基本金	84,068	85,777	87,086	88,928	90,239
第2号基本金	14,995	14,594	14,321	13,818	13,527
第3号基本金	10,468	10,768	11,268	11,768	12,268
第4号基本金	1,249	1,269	1,318	1,318	1,405
繰越収支差額	△ 5,302	△ 5,312	△ 4,766	△ 5,176	△ 4,829
翌年度繰越収支差額	△ 5,302	△ 5,312	△ 4,766	△ 5,176	△ 4,829
純資産の部合計	105,480	107,098	109,228	110,657	112,612
負債及び純資産の部合計	114,908	116,618	118,934	121,033	123,208

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

◆貸借対照表についての説明

- 貸借対照表：学校法人明治学院の財政状況が健全であるかどうか、また教育・研究のために必要な資産を保有しているかを表している。
- 資産：2023年度末の資産合計は、123,208百万円となり、前年度比2,175百万円（1.7%）増加した。
- 資産の内訳：固定資産は115,903百万円となり、前年度比1,809百万円（1.5%）増加した。その中で、将来の特定の支出に備えるために資金を留保している特定資産は、63,024百万円となり、前年比1,068百万円（1.7%）増加した。流動資産は、7,304百万円となり、前年度比366百万円（5.2%）増加した。
- 負債：2023年度末の負債合計は、10,596百万円となり、前年度比221百万円（2.1%）増加した。
- 借入金：年度末における長期と短期を合わせた借入金残高は1,062百万円となった。また借入金利息として7百万円を支払った。
- 基本金：2023年度末合計は117,441百万円となり、前年度比1,607百万円（1.3%）増加した。
- 純資産の部：学校法人を永続的に維持するために保持しなければならない純資産（基本金+翌年度繰越収支差額）が、112,612百万円となり、前年度比1,955百万円（1.7%）増加した。

3. 資金収支計算書

(単位：百万円)

科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
収入の部					
学生生徒等納付金収入	14,995	14,687	14,603	15,229	15,329
手数料収入	731	708	676	756	775
寄付金収入	168	153	156	125	129
補助金収入	1,917	2,305	2,287	2,363	2,433
国庫補助金収入	1,057	1,450	1,410	1,428	1,522
地方公共団体補助金収入	859	852	876	934	910
その他補助金収入	0	1	0	0	0
資産売却収入	16,881	18,426	10,409	2,644	1,760
付随事業・収益事業収入	208	132	156	175	207
受取利息・配当金収入	1,122	1,172	1,291	1,382	1,420
雑収入	407	525	718	496	486
借入金等収入	351	0	0	750	0
前受金収入	2,506	2,684	2,741	2,703	2,984
その他の収入	1,163	1,453	2,243	2,457	1,417
資金収入調整勘定	△ 2,864	△ 3,149	△ 3,362	△ 3,190	△ 3,154
当年度資金収入合計	37,589	39,100	31,921	25,894	23,789
前年度繰越支払資金	5,467	5,771	4,854	6,370	6,382
収入の部合計	43,057	44,872	36,776	32,265	30,172
支出の部					
人件費支出	9,858	10,130	10,380	10,129	10,274
(内、退職金支出)	(242)	(463)	(679)	(403)	(370)
教育研究経費支出	4,519	5,100	4,699	5,998	5,359
管理経費支出	1,100	1,048	1,020	1,135	1,342
借入金等利息支出	2	2	1	4	7
借入金等返済支出	135	91	1	20	20
施設関係支出	1,675	1,807	1,817	2,768	2,032
設備関係支出	549	555	351	715	556
資産運用支出	19,456	20,703	12,216	5,088	3,745
その他の支出	832	1,359	781	935	1,078
資金支出調整勘定	△ 844	△ 779	△ 863	△ 912	△ 845
当年度資金支出合計	37,285	40,018	30,405	25,883	23,572
翌年度繰越支払資金	5,771	4,854	6,370	6,382	6,600
支出の部合計	43,057	44,872	36,776	32,265	30,172

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

◆資金収支計算書についての説明

- 資金収支計算書：2023年度中の諸活動に対応するすべての資金の収入と支出の内容を明らかにする計算書である。
- 当年度資金収入合計：2023年度は、23,789百万円となり、前年度比2,105百万円（8.1%）減少した。
- 収入の部合計：前年度繰越支払資金6,382百万円を加えた資金収入の部合計は30,172百万円となった。
- 当年度資金支出合計：2023年度の資金支出の合計額は23,572百万円となり、前年度比2,311百万円（8.9%）減少した。
- 翌年度繰越支払資金：収入の部合計と当年度資金支出合計の差額が翌年度繰越支払資金となる。
2023年度は6,600百万円の繰越をすることになり、前年度より218百万円（3.4%）増加した。

4. 活動区分資金収支計算書

(単位：百万円)

		科目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	14,995	14,687	14,603	15,229	15,329
		手数料収入	731	708	676	756	775
		特別寄付金収入	142	134	136	109	111
		経常費等補助金収入	1,831	2,117	2,216	2,265	2,372
		付随事業収入	208	132	156	175	207
		雑収入	407	525	717	496	486
		教育活動資金収入計	18,317	18,306	18,506	19,032	19,282
	支出	人件費支出	9,858	10,130	10,380	10,129	10,274
		教育研究経費支出	4,519	5,100	4,699	5,998	5,359
		管理経費支出	1,100	1,048	1,020	1,135	1,342
		教育活動資金支出計	15,477	16,279	16,099	17,262	16,976
		差引	2,840	2,026	2,407	1,770	2,306
調整勘定等		227	42	△ 9	234	199	
	教育活動資金収支差額	3,068	2,069	2,398	2,004	2,505	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	25	19	20	15	18
		施設設備補助金収入	86	187	71	97	60
		第2号基本金引当特定資産取崩収入	410	811	792	1,052	872
		減価償却引当特定資産取崩収入	0	0	26	617	0
		施設整備等活動資金収入計	522	1,018	911	1,783	951
	支出	施設関係支出	1,675	1,807	1,817	2,768	2,032
		設備関係支出	549	555	351	715	556
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	581	410	520	550	581
		減価償却引当特定資産繰入支出	1,451	1,515	770	1,241	839
		施設整備等活動資金支出計	4,257	4,289	3,459	5,275	4,009
		差引	△ 3,734	△ 3,270	△ 2,548	△ 3,492	△ 3,058
	調整勘定等	△ 76	△ 175	130	0	7	
	施設整備等活動資金収支差額	△ 3,811	△ 3,446	△ 2,417	△ 3,491	△ 3,051	
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		△ 743	△ 1,376	△ 19	△ 1,486	△ 545	
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	351	0	0	750	0
		有価証券売却収入	16,881	18,426	10,409	2,644	1,760
		その他の資産売却収入	0	0	0	0	0
		保証金精算収入	0	0	0	0	0
		貸付金回収収入	18	17	20	15	13
		退職給与引当特定資産取崩収入	59	96	78	74	36
		国際交流引当特定資産取崩収入	2	0	0	0	0
		チャペルオルガン引当特定資産取崩収入	11	-	-	-	-
		法人基金引当特定資産取崩収入	3	0	59	1	4
		日本近代音楽館引当特定資産取崩収入	0	9	0	0	0
		その他の引当特定資産取崩収入	3	16	4	3	4
		立替金回収収入	150	0	1	0	0
		仮払金精算収入	0	0	0	0	1
		預け金回収収入	15	15	520	12	12
		預り金受入収入	15	110	96	0	19
	仮受金受入収入	1	0	0	1	3	
	小計	17,515	18,693	11,189	3,504	1,856	
	受取利息・配当金収入	1,122	1,172	1,291	1,382	1,420	
	為替差益	-	-	0	0	0	
	その他の活動資金収入計	18,637	19,866	12,482	4,886	3,276	
	支出	借入金等返済支出	135	91	1	20	20
		有価証券購入支出	16,381	18,426	10,409	2,644	1,760
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	1,000	300	500	500	500
		退職給与引当特定資産繰入支出	21	50	15	41	39
		国際交流引当特定資産繰入支出	1	0	0	0	0
		日本近代音楽館引当特定資産繰入支出	0	0	1	0	0
		その他の引当特定資産繰入支出	20	0	0	111	25
		貸付金支払支出	12	9	4	7	4
		立替金支払支出	0	0	0	0	141
		仮払金支払支出	0	0	0	2	0
預け金支払支出		14	520	13	12	13	
仮受金支払支出		0	6	0	0	0	
預り金支払支出		0	0	0	43	0	
小計		17,587	19,405	10,944	3,383	2,505	
借入金等利息支出		2	2	1	4	7	
その他の活動資金支出計	17,590	19,407	10,945	3,388	2,512		
差引	1,047	458	1,536	1,498	764		
調整勘定等	0	0	0	0	0		
	その他の活動資金収支差額	1,048	458	1,536	1,498	763	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		304	△ 917	1,516	11	217	
前年度繰越支払資金		5,467	5,771	4,854	6,370	6,382	
翌年度繰越支払資金		5,771	4,854	6,370	6,382	6,600	

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

5. 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

		科目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度		
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	14,995	14,687	14,603	15,229	15,329		
		手数料	731	708	676	756	775		
		寄付金	142	134	136	109	111		
		経常費等補助金	1,831	2,117	2,216	2,265	2,372		
		国庫補助金	985	1,270	1,357	1,380	1,485		
		地方公共団体補助金	845	845	859	885	887		
		その他補助金	0	1	0	0	0		
		付随事業収入	208	132	156	175	207		
		雑収入	432	545	717	511	486		
		教育活動収入計	18,342	18,326	18,507	19,047	19,282		
		事業活動支出の部	事業活動支出の部	人件費 (内退職給与引当金繰入額)	9,844 (228)	10,104 (437)	10,317 (617)	10,110 (385)	10,277 (373)
				教育研究経費 (内、減価償却額)	5,892 (1,373)	6,675 (1,575)	6,327 (1,628)	7,759 (1,760)	7,091 (1,731)
				管理経費 (内、減価償却額)	1,177 (77)	1,130 (82)	1,106 (86)	1,224 (89)	1,438 (96)
				徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	16,915			17,910	17,752	19,094	18,807		
		教育活動収支差額	1,426	415	754	△ 46	475		
教育活動外収入の部	事業活動外収入の部	受取利息・配当金	1,122	1,172	1,291	1,382	1,420		
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0		
		教育活動外収入計	1,122	1,172	1,292	1,382	1,420		
		教育活動外支出の部	事業活動外支出の部	借入金等利息	2	2	1	4	7
				その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
				教育活動外支出計	2	2	1	4	7
		教育活動外収支差額	1,119	1,170	1,291	1,377	1,413		
		経常収支差額	2,546	1,585	2,046	1,331	1,888		
特別収入の部	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0		
		その他の特別収入	127	223	106	125	92		
		施設設備国庫補助金	72	180	53	47	37		
		施設地方公共団体補助金	14	6	17	49	23		
		その他	40	35	35	27	32		
		過年度修正額	0	0	0	0	0		
			特別収入計	127	223	106	125	92	
	事業活動支出の部	事業活動支出の部	資産処分差額	91	191	22	27	27	
			その他の特別支出	0	0	0	0	0	
			特別支出計	91	191	22	27	27	
			特別収支差額	35	31	84	97	65	
		基本金組入前当年度収支差額	2,582	1,617	2,130	1,428	1,954		
		基本金組入額合計	△ 2,121	△ 1,630	△ 1,584	△ 1,838	△ 1,607		
		当年度収支差額	461	△ 12	546	△ 409	346		
		前年度繰越収支差額	△ 5,763	△ 5,302	△ 5,312	△ 4,766	△ 5,176		
		基本金取崩額	0	2	0	0	0		
		翌年度繰越収支差額	△ 5,302	△ 5,312	△ 4,766	△ 5,176	△ 4,829		
		事業活動収入計	19,592	19,721	19,906	20,555	20,796		
		事業活動支出計	17,009	18,104	17,775	19,126	18,841		

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示

◆事業活動収支計算書および基本金についての説明

- 学生生徒等納付金：学則や募集要項で所定の額を納入すべき旨が記載されているもので、授業料、入学金、実験実習料、施設設備資金等がある。2023年度は学院全体で15,329百万円となり、前年度比100百万円(0.6%)増加した。
- 手数料：入学検定料が主な収入である。志願者数が増加したため2023年度は775百万円となり、前年度比19百万円(2.5%)増加した。
- 補助金：国庫補助金と地方公共団体補助金が主な収入である。2023年度は学院全体で2,372百万円となり、前年度より107百万円(4.7%)増加した。
- 事業活動収入計：学校法人の収入のうちで、負債とされない収入の総額である事業活動収入計は、20,796百万円となり、前年度より241百万円(1.1%)増加した。
- 人件費：2023年度の人件費総額は10,277百万円となり、前年度比167百万円(1.6%)増加した。
- 教育研究経費：2023年度の研究経費は7,091百万円となり、前年度比668百万円(8.6%)減少した。
- 事業活動支出計：2023年度の事業活動支出計は18,841百万円となり、前年度比285百万円(1.4%)減少した。
- 当年度収支差額：2023年度は346百万円の収入超過となり、前年度比755百万円増加した。
- 基本金の種類と目的：第1号基本金は、学校の設置や既設の規模の拡大等で教育の用に供されるために取得した固定資産の価額で、2023年度末で90,239百万円(前年度比1,311百万円増)となる。
第2号基本金は学校の設置や既設の規模の拡大等で教育の用に供されるために将来取得する固定資産に充てる資金として、2023年度末で、13,527百万円(前年度比291百万円減)を保有している。
第3号基本金は、基金の運用から得られる果実を奨学金等の特定の目的に充てるために、基金として継続的に保持する資産額で、2023年度末には12,268百万円(前年度比500百万円増)を保有している。
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金額で「人件費+教育研究経費+管理経費+借入金利息」の合計の1/12(1ヵ月分)となっている。2023年度末には1,405百万円(前年度比87百万円増)を保有している。

6. 財務比率検証

(1) 財務比率について

2023年度決算数値による財務比率は下記のとおりである。

《2023年度事業活動収支計算書関係比率》

比 率 名 称		指標	2023年度 本学決算	2022年度 大学法人平均
①	人件費比率 (人件費／経常収入)	▼	49.6%	【46.0%】
②	人件費依存率 (人件費／学生生徒等納付金)	▼	67.0%	【75.2%】
③	教育研究経費比率 (教育研究経費／経常収入)	△	34.3%	【40.5%】
④	管理経費比率 (管理経費／経常収入)	▼	6.9%	【6.3%】
⑤	基本金組入後収支比率 (事業活動支出／(事業活動収入-基本金組入額))	▼	98.2%	【99.6%】
⑥	学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金／経常収入)	△	74.0%	【61.1%】

《2023年度貸借対照表関係比率》

比 率 名 称		指標	2023年度 本学決算	2022年度 大学法人平均
①	純資産構成比率 (純資産／(総負債+純資産))	△	91.4%	【86.9%】
②	固定比率 (固定資産／純資産)	▼	102.9%	【100.4%】
③	流動比率 (流動資産／流動負債)	△	151.1%	【228.6%】
④	負債比率 (総負債／純資産)	▼	9.4%	【15.1%】
⑤	退職給与引当特定資産保有率 (退職給与引当特定資産／退職給与引当金)	△	100.0%	【68.2%】
⑥	基本金比率 (基本金／基本金要組入額)	△	99.7%	【97.1%】

※【 】内は学生数10,000人以上の私立大学法人平均

(日本私立学校振興・共済事業団資料による)

※指標：一般的な評価「△：高い値が良い」「▼：低い値が良い」

(2) 点検・評価および改善目標について

(特長)

- ・事業活動収支計算書関係比率の中で特に、学生生徒等納付金比率が私学事業団大学法人平均を大きく上回っている。このことは私立学校としての本分である授業料等の収入が主体で運営されている、いわば財政的に健全体質である証ともいえる。
- ・12種類の財務比率の中で、7つの比率で私学事業団大学法人平均より優位な数値となっている。

(課題)

- ・教育研究経費比率については、30%台を継続したものの、前年度(38.0%)よりやや減少し、また前年度に引き続き平均値までは到達していない。
- ・学生生徒等納付金比率が高いことの裏返しで、それ以外の収入の比率が低いといえる。学生生徒等納付金以外の事業活動収入項目を模索する必要がある。

(改善目標)

- ・人件費比率は49.6%となり、昨年度とほぼ同率で私学事業団大学法人平均を上回っており、人件費構造の見直しについては今後も検討課題であるため、引き続き抜本的改革の実施を検討する。
- ・教育研究経費比率を向上させ、教育研究に寄与する財政構造となることを目指す。
- ・学生生徒等納付金以外の収入を増やし、より充実した財政基盤の確立を図る。

7. 監事による監査報告書

監事監査報告書

2024年5月24日

学校法人 明治学院

理事会 御中

評議員会 御中

私たち学校法人明治学院監事 辻 泰一郎、真崎 修は、私立学校法第37条第3項及び寄附行為第23条の定めに従い、2023年4月1日から2024年3月31日までの本法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況を監査しました。その結果について以下のとおり報告します。

1. 監査の方法

監事は全ての常務理事会、理事会、評議員会に出席し意見を述べたほか、理事長、学院長、学長、高校長、中学・東村山高校長、総務担当理事、財務理事など業務執行理事から業務の報告を聴取するとともに、重要部局の責任者にヒアリングを行いました。それらを通じて学院の現況及び将来の展望（事業計画、中期計画等）、教学全般の状況（入試、就職、明治学院教育ビジョン、補助金の採択状況等）、本法人の法務関連の対応状況、並びに財務の状況について把握するように努めました。

監査の実施にあたっては、会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人から報告及び重要事項についての説明を受けて意見の交換を行い、またその実査にも立ち会いました。さらに、業務監査を実施し、重要な決裁書類の提出を受けてこれを閲覧し、監査しました。

2. 監査の結果

監査の結果、建学の精神に立って良心的な教育を実践するために適切な運営が行われていると認めます。また本法人の業務に関する決定及び執行は適切な手続きを経て行われており、業務及び財産並びに理事の業務執行に関する不正行為及び法令や寄附行為に違反する明白かつ重大な事実は、認められませんでした。

3. その他の所見

- 「情報数理学部」をはじめとする大学の教育活動の更なる充実・発展に取り組むことを望みます。
- 私学法の改正を踏まえ、内部統制システムの整備等の対応を適切に行い、本法人のガバナンスが一層強化されることを期待します。
- 本法人の金融資産については、金融経済情勢が変化しつつあることから有価証券の市場性や金融システム全体に波及するリスクについて留意が必要と思われます。

学校法人明治学院

監事 辻 泰一郎 ⑩

監事 真崎 修 ⑩

明治学院広報（別冊）

編集 法人事務室（内線5167）

発行責任者 理事長 山崎 雅男



「明治学院広報」は地球環境保護のために、大豆油インキを使用しております。

